

投資家様向け会社説明資料

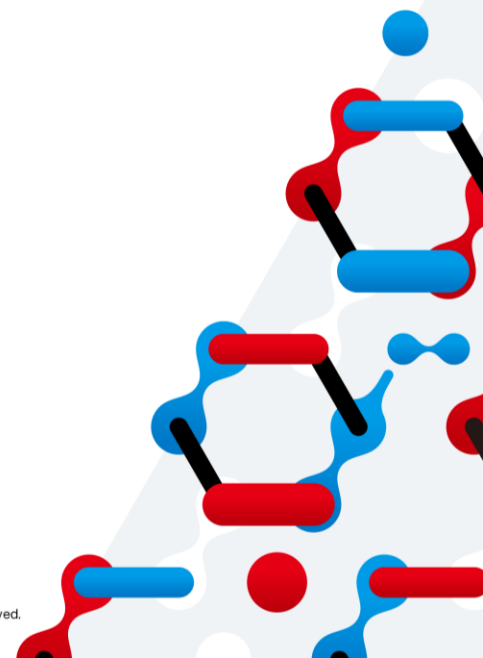
証券コード：4202

2026年5月31日現在

コタエを、ダセル。

DAICEL

株式会社 **ダイセル**



イントロダクション

マーケットインの深化による独自の価値創出を通じ、
社会と顧客から持続的に選ばれ続けるモノづくり企業への進化を目指して



代表取締役社長

桒 康裕

目 次

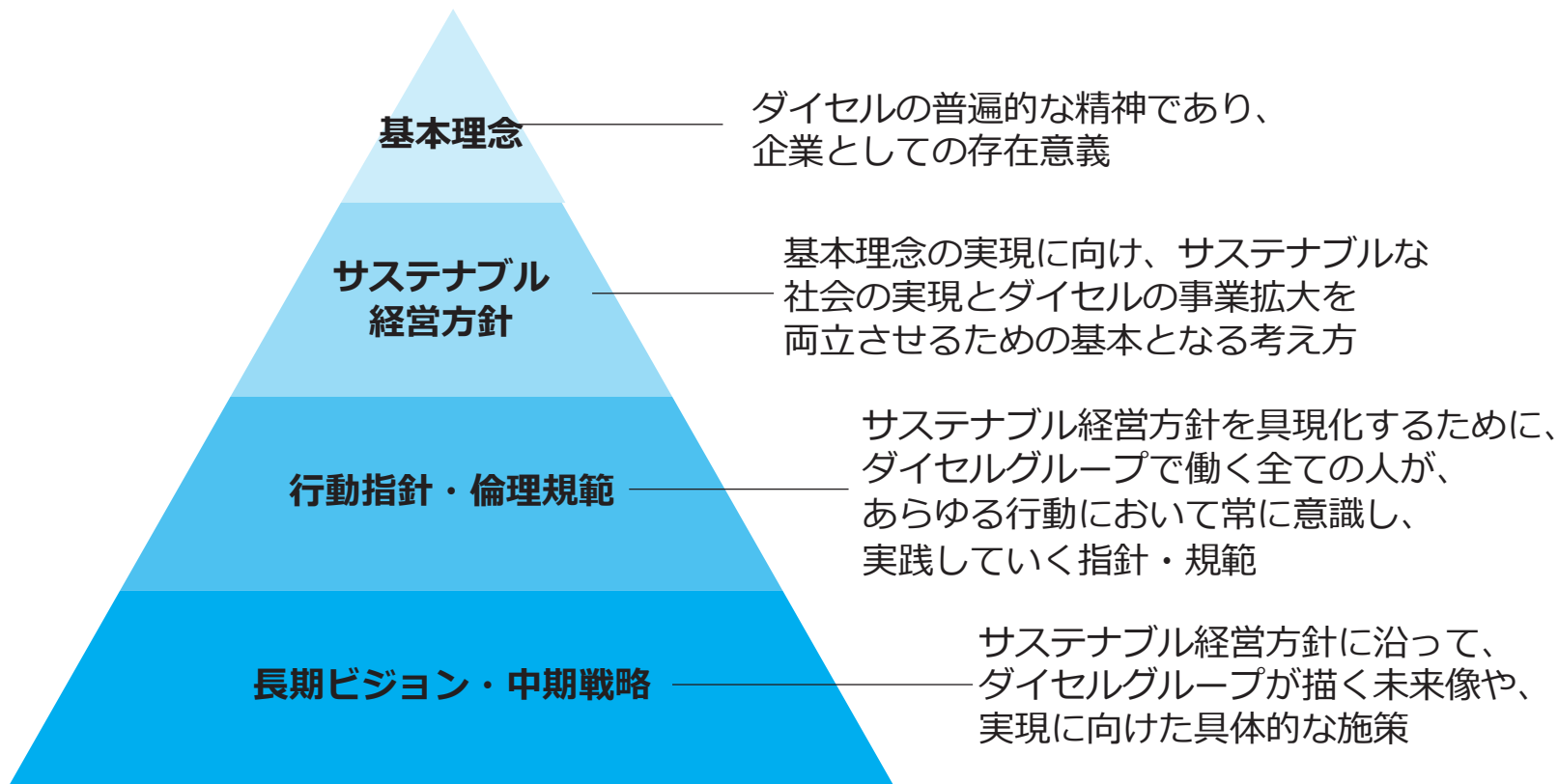
イントロダクション	2
基本理念	3
ダイセルとは	4
製品・技術系譜から見たダイセルグループ	5
ダイセルグループの強み	6
ダイセルグループの事業	7
中期戦略	13
株主還元	19
Appendix	20

基本理念:

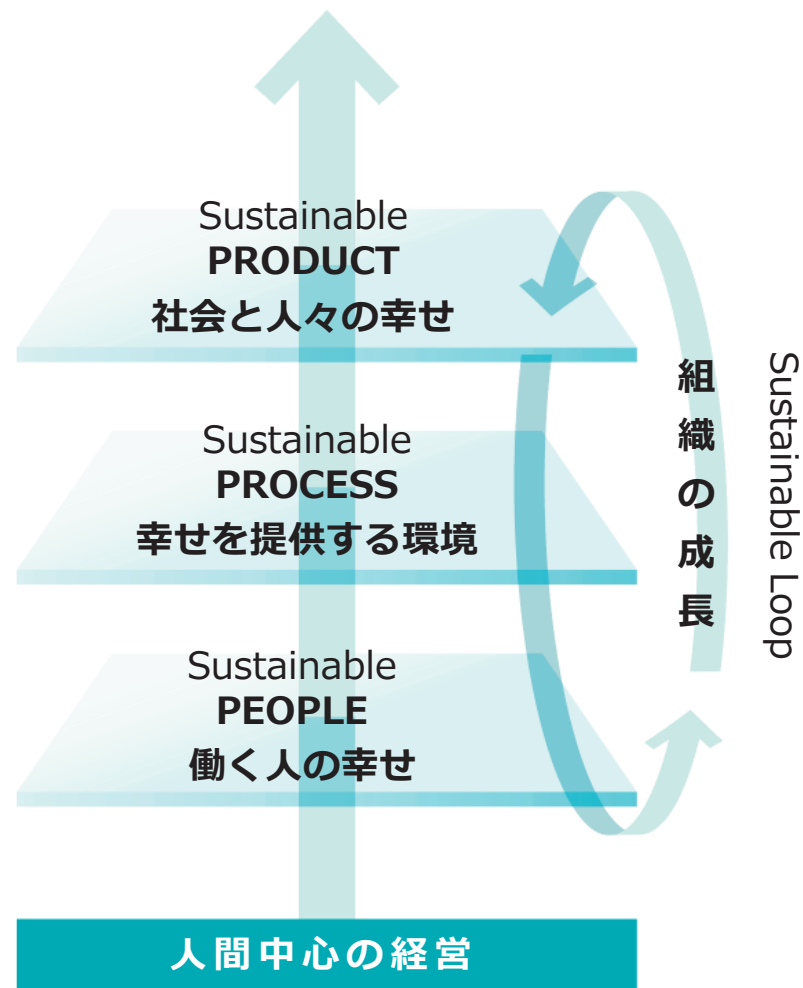
価値共創によって人々を幸せにする会社

Sustainable Value Together **DAICEL**

ダイセルグループの理念体系



サステナブル経営方針



ダイセルとは

1919年、日本のセルロイド会社8社の合併によって大日本セルロイド株式会社（今日の株式会社ダイセル）は誕生しました。現在は、世界14の国・地域に70社、連結従業員数は1万人規模で、5つのセグメントで事業を展開し、基盤事業における収益力向上と成長分野の拡販に取り組んでいます。

事業ポートフォリオを意識したメリハリのある経営を実践し、ROICやEBITDA等の各経営指標の改善に取り組んでいます。株主還元については、2026年度より配当方針をDOE5%以上かつ総還元性向60%以上へと引き上げており、安定的かつ継続的な累進配当の実現を図ります。

2026年3月期

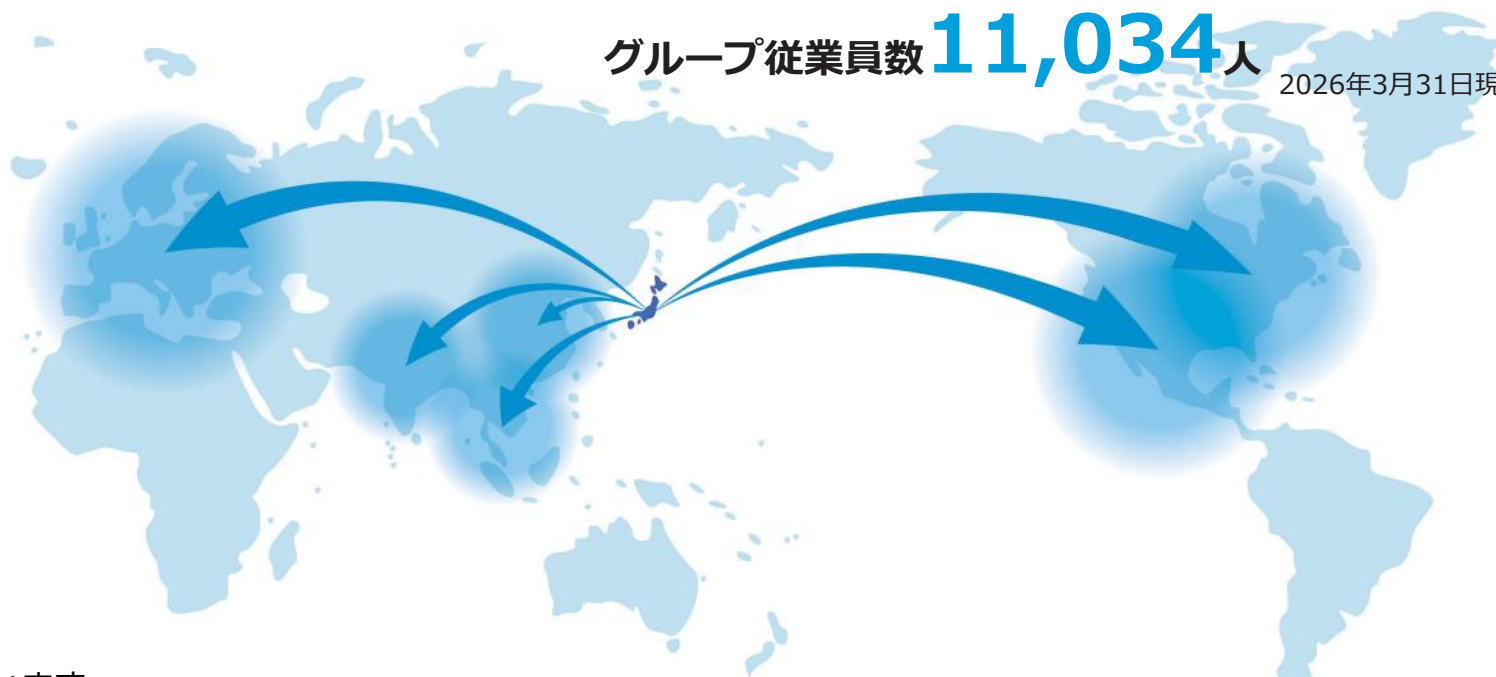
連結売上高	5,796 億円
連結営業利益	421 億円
EBITDA	854 億円
EPS※	38.75 円
ROIC	4.2 %
ROE	2.8 %
ROA	1.2 %
DOE	4.3 %
総還元性向※	288.6 %

ダイセルグループ 連結海外売上高 **65.6%**

グループ企業数 **14** の国と地域に **70** 社

グループ従業員数 **11,034** 人

2026年3月31日現在

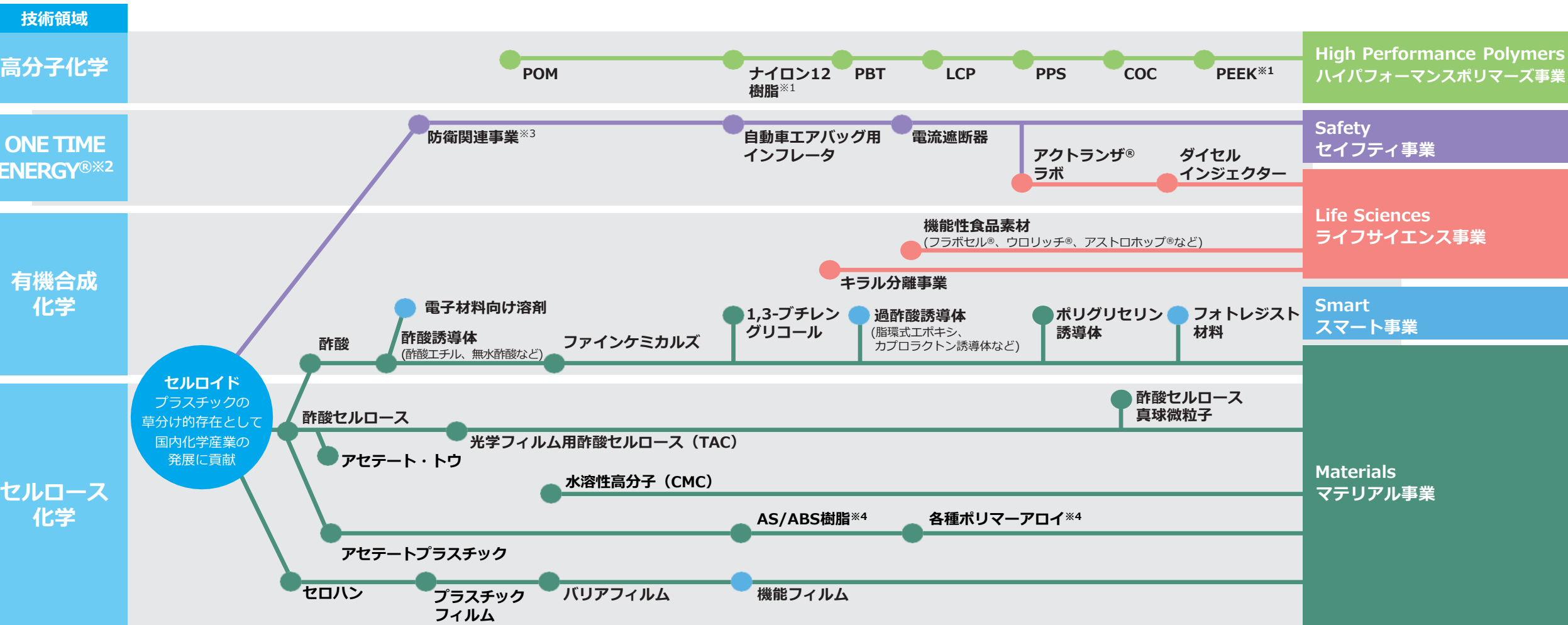


※減損損失の計上に伴い、一時的に数値が大きく変動しています。

製品・技術系譜から見たダイセルグループ



セルロイド事業を起点とするダイセルは、その蓄積した技術をベースに、4つの新たな技術領域を展開してきました。天然素材を原料とする「セルロース化学」を始めとし、強固なアセチルチェーンを確立した「有機合成化学」、多様な樹脂の研究により培った「高分子化学」、火工品技術から進化した「ONE TIME ENERGY®」は、ダイセルグループの事業領域を支えるコア技術として、現代の多様化する社会ニーズに貢献し続けています。



※1 持分法適用会社ダイセル・エポニック株式会社の製品
※2 インフレーター製造で培った「安全、確実、瞬時に、一度だけ最適なエネルギーを生み出す技術」をONE TIME ENERGY®と定義し、自動車用途以外の用途も開拓しています。
※3 2023年3月期事業撤退 ※4 ABS樹脂および各種ポリマーアロイは、2024年設立の持分法適用会社ノバセル株式会社へ譲渡しました。

ダイセルグループの強み



セルロイドは世界で初めて工業化されたプラスチックで、日本では1900年代から原料の国産化が始まりました。その後、国内セルロイドメーカー8社の合併により、1919年に誕生したのが、大日本セルロイド株式会社（今日のダイセル）です。ダイセルは、時代のニーズに合わせた製品開発を続け、人々の暮らしに役立つ様々な素材を提供しています。また、化学プラントの画期的な生産革新手法や省エネ・省資源につながる生産技術の開発にも取り組んでいます。私たちダイセルは、世界各地に広がるグループ企業各社とともに、化学産業におけるエコノミーとエコロジーの調和を図りながら、これからも人々に幸福をもたらす企業であり続けたいと考えています。

ダイセルの3つの強み

1 バイオマス化学の パイオニア

1919年の設立以来、ダイセルは植物由来の原料から化学品を作るバイオマス化学に取り組んできました。綿花やクスノキの一部を原料としたセルロイド事業から出発し、その易燃性を克服した酢酸セルロースの製品化を経て、現在は様々な市場分野にバイオマス製品を供給し続けています。

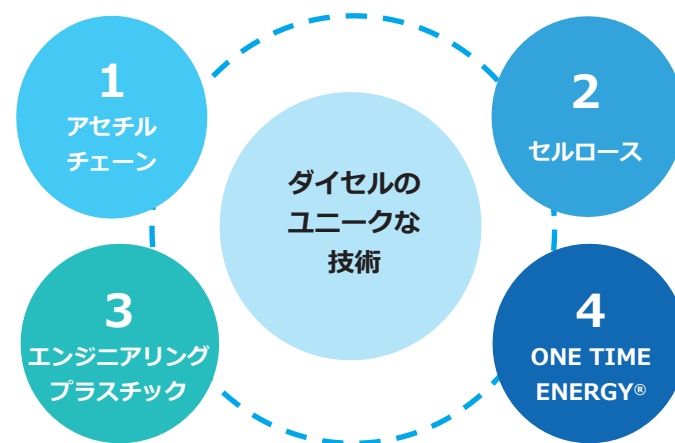


酢酸セルロース

[ダイセルのセルロース](#) | 株式会社ダイセル

2 創業以来培った ユニークな技術

酢酸誘導体を製造するアセチルチェーンの構築から、世界的シェアを持つ高機能エンジニアリングプラスチックの製造まで、革新的な技術でプロダクトを世に送り出しています。



3 ダイセル式生産革新による生産効率の追求

当社の化学メーカーとしてのモノづくりの基盤を支えるのが、ダイセル式生産革新です。熟練オペレータが持つ約840万の工場運転に関するノウハウを可視化し、運転支援システムに落とし込むことで、生産効率を約3倍※に向上させました。さらに2020年には、これにAIを用いて進化させた「自律型生産システム」の開発に成功。安全・品質はもちろん、エネルギー使用の最適化でCO₂排出量の削減にも寄与する他、事前予測によるトラブルの防止も行うことで、究極の生産効率を追求しています。

※ ダイセル網干工場での実績



統合生産センター

[ダイセル式生産革新TOP](#) | 株式会社ダイセル
(daicel.com)

ダイセルグループの事業



2026年3月期連結売上高
5,796億円

マテリアル事業を基盤に、成長牽引事業であるハイパフォーマンスポリマーズとセイフティのEBITDAを拡大し、次世代育成であるライフサイエンスとスマートの早期収益化へ。

High Performance Polymers

ハイパフォーマンスポリマーズ事業

売上高
2,215億円
構成比率
38.2%

エンジニアリングプラスチックのパイオニアとして培った技術力で、幅広い産業に高機能で付加価値の高いソリューションを提供



ポリアセタール（POM）

自動車、家電、産業機器向けなどの幅広い用途に使用され、各時代の主要産業の発展に貢献。

世界シェア
No.1



液晶ポリマー（LCP）

小型化が進む最新IT機器のみならず、高速通信網やAIサーバー関連部品に多く利用され、社会インフラを支える。

Materials

マテリアル事業

売上高
1,959億円
構成比率
33.8%

アセチルチェーンを主軸とした多彩な製品群を強みに幅広い産業に価値を提供



国内シェア
No.1

酢酸

国内唯一の酢酸メーカー。酢酸は環境にやさしいプラスチック製品の原料でもあり、環境対応型素材として、ソリューションを提供。



アセテート・トウ

酢酸セルロースから作られるアセテート・トウは、酢酸からの一貫生産という強みに加え、ダイセルの高い技術による高品質と安定供給、そして高い信頼性を誇る。

Safety

セイフティ事業

売上高
1,042億円
構成比率
18.0%

高いグローバルシェアを誇る自動車エアバッグ用インフレーター事業で培ったONE TIME ENERGY®の技術で、幅広い産業に安全・安心を提供



国内シェア
No.1

自動車エアバッグ用インフレーター

自動車エアバッグシステムのキーパーツを供給し、衝突事故時の乗員の安全確保に貢献。



電流遮断器

インフレーター製造で培ったONE TIME ENERGY®技術を自動車以外の産業用途に展開し、暮らしの安全を支える。

Smart

スマート事業

売上高
377億円
構成比率
6.5%

人々の暮らしの快適さや技術革新を支える電子材料市場に新たなソリューションを提供



世界シェア
No.1

脂環式エポキシ

世界唯一の製法で不純物が少なく、塩素を含まないため、品質への信頼性や耐久性が求められる電材用途で多く採用され、EV向けでも注目度大。



電子材料向け溶剤

高純度、低メタル溶剤の生産・品質管理体制を有し、半導体プロセス用途で高い実績。

Life Sciences

ライフサイエンス事業

売上高
184億円
構成比率
3.2%

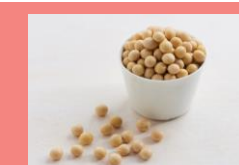
QOLが重視される社会に、安全で高品質なヘルスケア素材や医薬品開発に関わるソリューションを提供



世界シェア
No.1

キラルカラム

光学異性体を分離するクロマトグラフィー用カラム。薬として有効な成分を分離し、安全な医薬品の提供に貢献。



フラボセル® (大豆由来の腸内代謝物/S-エクオール)

大豆イソフラボン由来成分が、女性のウェルエイジングで注目。当社独自の微生物発酵技術で人により体内産生できない成分を効率的に補い、QOL向上に貢献。

ハイパフォーマンスポリマーズ事業



2026年3月期実績

売上高 営業利益

2,215億円 191億円

■事業説明

- ✓ エンジニアリングプラスチックのパイオニアとして培った技術力で、幅広い産業に高機能で付加価値の高いソリューションを提供

■ダイセルグループの強み

✓ エンジニアリングプラスチックのエキスパート

機械強度、耐熱性、耐薬品性などの機能を持つエンジニアリングプラスチック分野で、幅広い産業に高機能で付加価値の高いソリューションを提供

✓ お客様との共創による用途開発

自動車の軽量化や電装化、AIや半導体産業への高機能樹脂の提案・提供を通じ、時代と共に変わる主要産業や社会のニーズに応えるアプリケーションをお客様と共に開発

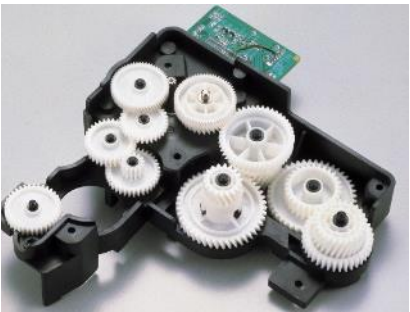
✓ グローバルな技術サポート体制

日本、中国、台湾、タイ、米国、ドイツの主要地域にテクニカルソリューションセンターを配置し、製品の構想段階から量産ラインの安定稼働まで常に併走する共創パートナー

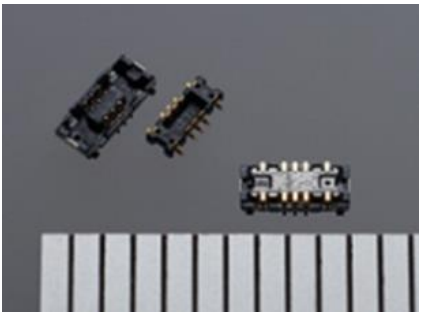
■事業領域

主要な製品/主な市場	自動車関連	諸工業	電子関連	医療関連	包装関連
ポリアセタール(POM)	●	○	○	○	○
ポリブチレン・テレフタレート(PBT)	●	○	○		
液晶ポリマー(LCP)	○	○	●		
ポリフェニレン・サルファイド(PPS)	●	○	○		
環状オレフィン・コポリマー(COC)				○	●

※ ● はメイン市場



ポリアセタール (POM) を用いたギヤ



液晶ポリマー (LCP)を用いた狭ピッチコネクタ

マテリアル事業

2026年3月期実績

売上高

営業利益

1,959億円 148億円

■事業説明

- ✓ 酢酸を起点とした一貫生産体制を強みに、アセチルチェーンから生まれる多彩な製品群で幅広い産業に価値を提供

■ダイセルグループの強み

- ✓ **酢酸からの一貫生産**
国内唯一の酢酸メーカーであり、酢酸から酢酸セルロース、アセテート・トウまで一貫生産体制を構築
- ✓ **世界トップクラスのシェアを有する製品群**
光学フィルムに使用されるTACは世界トップシェア、アセテート・トウも世界的に高いシェアを獲得。無臭グレードの1,3-BGなど高付加価値品も伸長
- ✓ **ダイセル式生産革新による最適なプラント運営**
「省エネ・省資源」「高品質」「安定供給」を実現する独自の生産方式が、グローバル顧客からの信頼を支える

■事業領域

アセチル事業

アセテート・トウ、酢酸セルロース、
液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）、
海洋生分解性酢酸セルロース樹脂（CAFBLO®）



アセテート・トウ

ケミカル事業

酢酸、無水酢酸、酢酸エチル、1,3-BG、ポリグリセリン、
酢酸セルロース真球微粒子（BELLOCEA®）、
水溶性高分子（CMC）、AS樹脂



化粧品原料：真球状酢酸セルロースBELLOCEA®

セーフティ事業

2026年3月期実績

売上高

営業利益

1,042億円 61億円

■事業説明

- ✓ 瞬時に作動する駆動力・推進力「ONE TIME ENERGY®」を核に、自動車エアバッグ用インフレーターで培った信頼性を電力インフラなど新領域へ展開し、幅広い産業に安全・安心を提供

■ダイセルグループの強み

- ✓ 「万一の瞬間に人を守る」安全・安心の価値提供
自動車の衝突を感知して数ミリ秒でエアバッグを膨らませるインフレーターが主力。1988年の事業化以来、ガス発生剤からの一貫生産で高い信頼性を実現
- ✓ 国内トップ・世界有数のシェア
自動車エアバッグ用インフレーターで国内トップシェア、グローバルでも高いシェアを獲得。ダイセル式生産革新にトヨタ生産方式を応用し、品質と生産性を両立
- ✓ ONE TIME ENERGY®の新領域展開
瞬時に作動する技術を電気自動車やESS※・データセンター向け電流遮断器へ展開し、採用拡大が期待される

※ ESS = Energy Storage System（エネルギー貯蔵システム）

■事業領域

主な市場	主要な製品
自動車	自動車エアバッグ用インフレーター シートベルトプリテンショナー用ガス発生器（PGG） 電気自動車向け電流遮断器（PDD）
インフラ・社会	ESS・データセンター向け電流遮断器（PDD） ウェアラブルエアバッグ（あすほ）



自動車エアバッグ用
インフレーター



電流遮断器



ウェアラブルエアバッグ

スマート事業

2026年3月期実績

売上高

377 億円

営業利益

5 億円

■事業説明

- ✓ 素材から加工まで一貫した技術力で、半導体・エレクトロニクス市場の進化を支えるソリューションを提供

■ダイセルグループの強み

✓ 半導体材料：モノマー設計からの一貫生産

フォトレジスト材料はレジストポリマーをモノマー設計段階から自社で手掛け、一貫生産体制を確立。電子材料向け溶剤も国内一貫生産で、半導体の微細化ニーズに応える高純度・低メタル品を幅広く供給

✓ 高機能材料：世界シェアNo.1の脂環式エポキシ

当社の脂環式エポキシは、世界唯一の製法により塩素を含まず、金属腐食やクラックを抑制。耐久性と信頼性が求められる電子材料やEVモーターの絶縁体で採用拡大

✓ 素材から加工までの提供力

脂環式エポキシ×機能フィルムなど、「素材」と「加工」を組み合わせることで、幅広いソリューションを提供

■事業領域

半導体材料事業

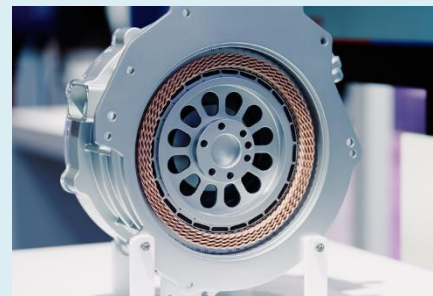
フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤



電子材料向け溶剤
(半導体製造前工程イメージ図)

高機能材料事業

脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、機能フィルム



EVモーター向け
脂環式エポキシ（用途例）

ライフサイエンス事業

2026年3月期実績

売上高 営業利益

184億円 9億円

■事業説明

- ✓ 独自の分離・発酵技術で、医薬品開発ソリューションから機能性食品素材まで、QOL向上に貢献するヘルスケア価値を提供

■ダイセルグループの強み

✓ 世界トップクラスのキラルカラム

医薬品の開発・製造における光学異性体の分析・分取に使用されるキラルカラム※1において、世界トップクラスのシェアを有し、豊富な製品ラインナップとグローバルな供給・技術サポートを提供

✓ 独自の嫌気発酵技術による健康価値創出

豊富な腸内細菌ライブラリーと独自の嫌気発酵技術※2を活用し、人によっては体内で十分に産生できない腸内代謝物を直接摂取できる機能性食品素材を提供

✓ 技術の掛け合わせによる新領域創出

セイフティ事業のONE TIME ENERGY®を応用した無針投与デバイスや、当社のクロマトグラフィー技術と膜分離技術を融合したエクソソーム分離精製装置など、独自技術の組み合わせでユニークな製品を創出

※1 光学異性体を分離するクロマトグラフィー用カラム（医薬品の品質確認や目的成分の取得などに用いる）

※2 酸素がない状態での発酵技術

■事業領域

主な市場	主要な製品・サービス
医薬品、ライフサイエンス研究	クロマトグラフィー用カラム・充填剤（キラル・アキラル）、分取・精製、分析等の受託サービス
医療	動物実験用デバイス（アクトランザ®ラボ）、医療機器（ダイセルインジェクター）
健康食品	機能性食品素材（フラボセル®（機能性成分：エクオール）、ウロリッチ®（ウロリチンA）、アストロホップ®（8-プレニルナリンゲニン）など）
医療、下水道、その他一般産業	分離膜、分離膜モジュール、透析用水作製装置（MOLSEP®）



キラルカラム



大豆由来の腸内代謝物：エクオール

中期戦略『Accelerate 2030』

ダイセルグループは2026年に新中期戦略『Accelerate 2030』をスタートさせました。

前中期戦略にて計画された構造改革が大方完了し、成長のための種まきをするなど、さらなる成長に向けて布石を打ってきましたが、新中期戦略では収益のさらなる安定化と事業成長の促進を実現させるべく、重点取り組みを設定しています。

目標達成に向け2028年度を重要な年度と位置づけ、計画必達に向け進捗確認・打ち手の見直しを徹底していきます。

新中期戦略 重点取り組み

✓ セルロース事業強化

基盤

- ・製法転換
- ・新用途展開



✓ 成長投資

- ・エンジニアリングプラスチック事業 **成長牽引**
- ・セイフティ事業 **成長牽引**
- ・次世代育成事業



✓ 資本効率の最大化



✓ OP-Ⅲ（新企業集団）実現に向けた挑戦

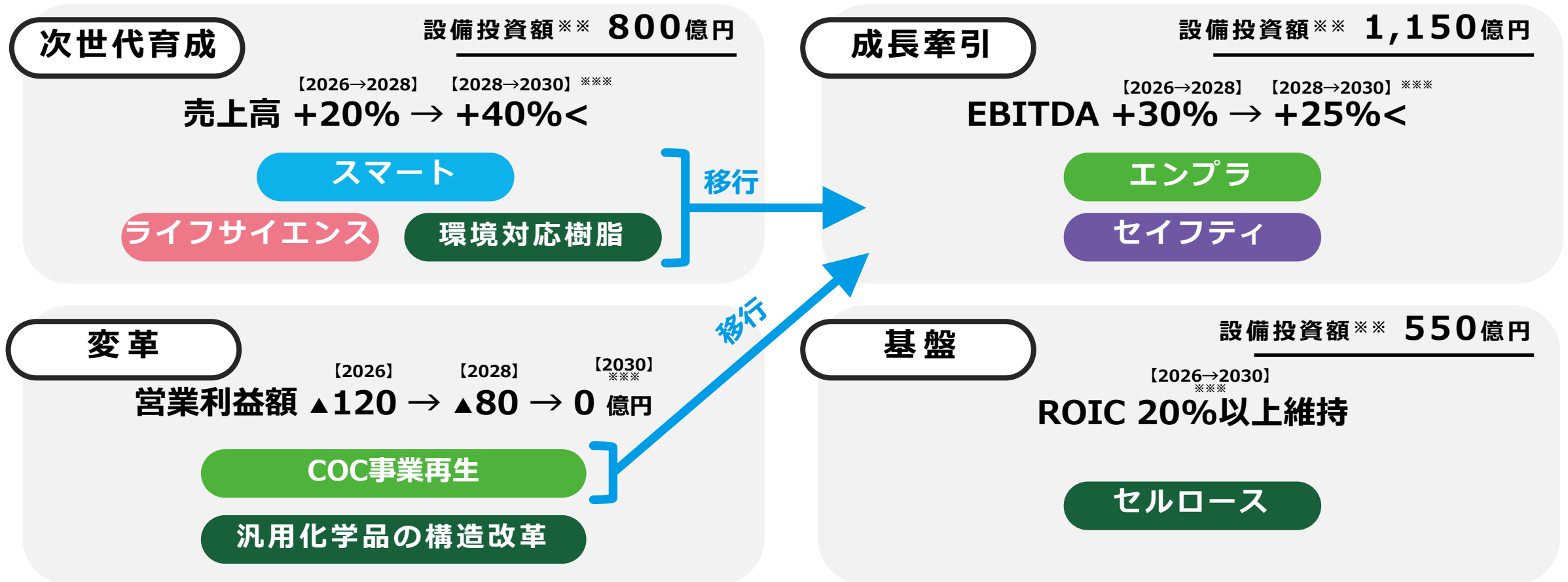


(億円)	2028年度 計画	2030年度 挑戦
売上高	6,750	7,500<
営業利益	630	1,000<
EBITDA	1,200	1,700<
ROE (%)	12	15<
ROIC (%)	7	10<
ROA (%)	5	7<

為替レート：150円/ドル

中期戦略 ―ポートフォリオマネジメント―

- 基盤で確実にキャッシュを創出し、次世代育成・成長牽引に資源投下
- 象限毎に設定した経営指標必達に向け、計画未達項目の早期抽出・迅速なアクション展開



※ポートフォリオ象限別サブセグメント

成長牽引：ハイパフォーマンスポリマーズ、セイフティ。基盤：セルロース、キラルカラム、ダイセルミライズ、他
次世代育成：スマート、ライフサイエンス、環境対応樹脂、コスメ。変革：COC樹脂、汎用化学品、他

※設備投資額は、2026-2030年度累計
***年度表記

中期戦略 一数值目標一



(億円)		2026年度 予想	2028年度 計画	2030年度 挑戦	成長投資
成長牽引	売上高	3,200	3,900	4,200<	1,150
	営業利益	270	430	580<	
基盤	売上高	1,650	1,850	2,300<	550
	営業利益	260	250	250<	
次世代 育成	売上高	600	700	1,000<	800
	営業利益	15	30	170<	
変革	売上高	500	300	—	
	営業利益	▲120	▲80		
合計	売上高	5,950	6,750	7,500<	3,000 (500※1)
	営業利益	425	630	1,000<	

	2026年度 予想	2028年度 計画	2030年度 挑戦
ROE	9.1%	12%	15%<
ROIC	4.3%	7%	10%<
親会社株主に 帰属する 当期純利益	320	440	650
棚卸資産 回転日数	134日	100日	<90日
温室効果ガス 排出量削減	2030年度目標 (2018年度比) スコープ1およびスコープ2 50%削減 スコープ3 30%削減※2		
人的資本経営	サクセッションプランの強化 グローバルでのキーポジションにおける後継者準備率※3 200%< エンゲージメントサーベイスコア 65%<		

※ポートフォリオ対象別サブセグメント

成長牽引：ハイパフォーマンスポリマーズ、セイフティ。基盤：セルロース、キラルカラム、ダイセルミライズ、他
次世代育成：スマート、ライフサイエンス、環境対応樹脂、コスメ。変革：汎用化学品、COC、他

※1：セグメント共通設備投資

※2：削減対象カテゴリ1・3・4

※3：1ポジションに2名以上の後継者候補が準備されている状態

中期戦略 一財務戦略一

- 資本コストを安定的に上回る水準としてROE 15%以上、ROIC 10%以上をターゲット
- キャッシュ創出力の向上を図り、EBITDA 1,700億円以上を実現
- 還元方針を「DOE5%以上・総還元性向60%以上をターゲットとし安定かつ継続的な累進配当を実現」に
- 有利子負債の水準はネットD/Eレシオ0.7倍程度を目途にコントロールし増加抑制

項目	2025年度 実績※	2026年度 予想
ROE	2.8%	9.1%
ROIC	4.2%	4.3%
ROA	1.2%	3.9%
WACC	4.2%	4.2%
EBITDA（億円）	854	870
ネットD/Eレシオ（倍）	0.69	0.69
DOE	4.3%	5%<



2028年度 計画
12%
7%
5%
5%
1,200
0.70程度
5%<



2030年度 挑戦
15%<
10%<
7%<
5%
1,700<
0.70程度
5%<

※2025年度実績 COC樹脂新規プラントの減損損失を含む

中期戦略 ―キャッシュアロケーション―

- キャッシュフローのうち成長投資（含む環境対応）に5割以上を振り向けトップライン拡大に注力
- 株主還元配分可能総額の30%程度を振り向け、還元総額を維持・増額
- 総還元性向は60%以上をターゲットとし自社株買いも活用してエクイティ水準をコントロールする

中期期間前半3年間 キャッシュアロケーション

キャッシュイン (2026～2028年度)

単位：億円

営業
CF

2,950

政策株
売却等

150

配分可能総額
3,100～

キャッシュアウト (2026～2028年度)

単位：億円

株主
還元

900～

成長
投資

1,600～

維持
投資

600

中期期間累計5年間 キャッシュアロケーション

キャッシュイン (2026～2030年度)

単位：億円

営業
CF

5,400

政策株
売却等

200

配分可能総額
5,600～

キャッシュアウト (2026～2030年度)

単位：億円

株主
還元

1,600～

成長
投資

3,000～

維持
投資

1,000

中期戦略 ーセグメント別数値目標ー



(億円)

		2026年度 予想	2028年度 計画	2030年度 挑戦				2026年度 予想	2028年度 計画	2030年度 挑戦	総額※2	成長投資 のみ
ハイパフォーマンス ポリマーズ	売上高	2,290	2,600	2,800<				343	450	600<	1,050	880
	営業利益	215	300	400<								
マテリアル	売上高	1,940	2,100	2,300<				293	330	420<	1,040	760
	営業利益	107	110	150<								
セイフティ	売上高	1,095	1,290	1,320<				168	220	260<	300	260
	営業利益	77	160	200<								
スマート	売上高	390	450	650<				35	100	210<	500	420
	営業利益	10	20	130<								
ライフサイエンス	売上高	215	300	430<				23	70	160<	210	180
	営業利益	13	40	120<								
合計	売上高	5,950	6,750	7,500<				870	1,200	1,700<	(900※3) 4,000	(500※3) 3,000
	営業利益	425	630	1,000<								

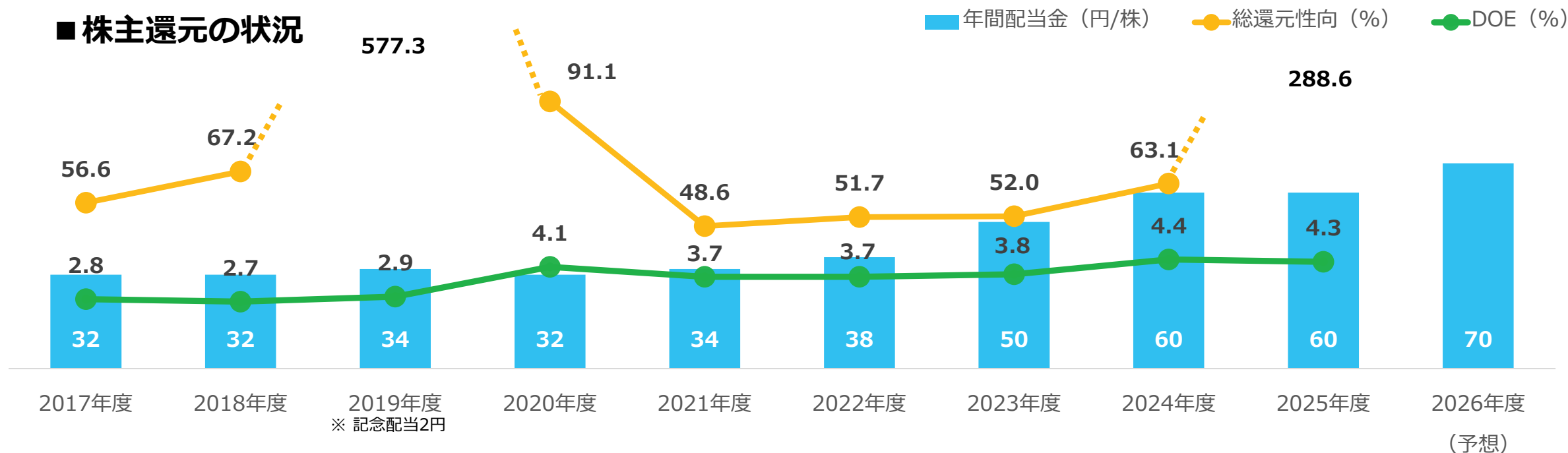
※1 為替レート(USD/JPY) : 150
主要原燃料 : メタノール330(USD/ton)、原油70(USD/bbl)、国産ナフサ65,000(円/kl)

※2 2026-2030年度中の 成長投資費 + 維持投資費 総額
※3 各セグメントに含まれない共通設備投資費

株主還元方針

「DOE（株主資本配当率）5%以上」かつ「総還元性向60%以上」を指標として設定し、安定かつ継続的な累進配当を実現する

■ 株主還元の状況



■ 自己株式の取得・消却状況

2023年3月期 約100億円の自己株式取得の実施、1,600万株の自己株消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 5.28%）
2024年3月期 約150億円の自己株式取得の実施、1,000万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 3.49%）
2025年3月期 約150億円の自己株式取得の実施、1,000万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 3.61%）
2026年3月期 約138億円の自己株式取得の実施、1,080万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 4.05%）

Appendix

会社概要



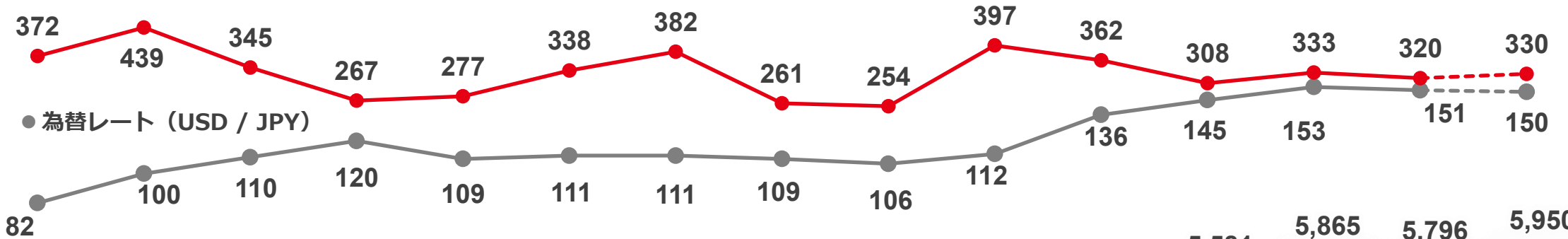
商 号	株式会社ダイセル
英 文 商 号	DAICEL CORPORATION
設 立	1919年9月8日
資 本 金	362億円
従 業 員 数	2,533名（ダイセルグループ 11,034名） ※2026年3月31日現在
本 社 所 在 地	大阪本社
	大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 タワーB
	東京本社
	東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル
上 場 市 場	東証 プライム市場
証 券 コ ー ド	4202（化学）
売 買 単 位	100株

国内事業所



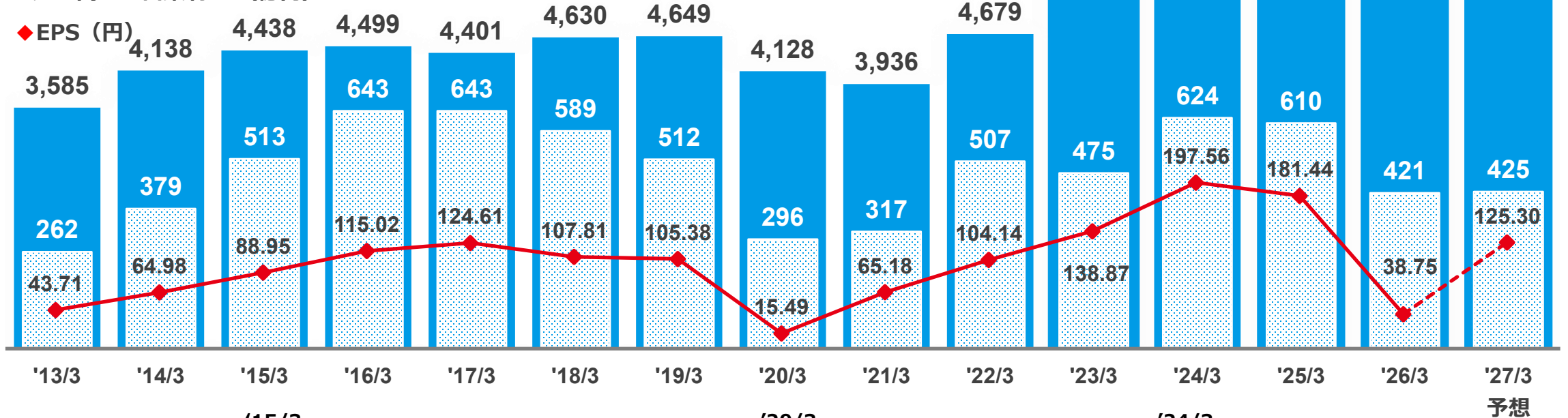
業績（売上高・営業利益・EPS）の推移

●メタノールアジアスポット価格（USD / ton）



■売上高・□営業利益（億円）

◆EPS（円）



'15/3
他社におけるエアバッグ大規模
リコール/
代替生産によるインフレータ緊
急増産（ダイセルグループ）

'18/3
インフレータ緊急増産
収束（ダイセルグループ）

'20/3
COVID-19 パンデミック

'22/3
ロシアによるウクライナ
侵攻、半導体不足、
物流混乱

'24/3
ダイセルグループ
COプラント稼働

'25/3
ダイセルグループ
POM、LCP増産
プラント稼働

連結貸借対照表

単位：億円		2025年 3月末	2026年 3月末	増減
流動資産		3,956	4,032	+75
	現金及び預金	651	688	+37
	受取手形及び売掛金	1,139	1,173	+34
	棚卸資産	1,779	1,745	△34
	その他	387	425	+39
固定資産		4,182	4,308	+126
	有形固定資産	3,194	3,344	+149
	無形固定資産	106	111	+4
	投資その他資産	881	853	△28
資産合計		8,138	8,339	+201
負債		4,388	4,635	+248
	有利子負債	2,861	3,122	+261
	その他	1,527	1,513	△14
純資産		3,750	3,704	△47
負債純資産 合計		8,138	8,339	+201

連結キャッシュ・フロー計算書



単位：億円		2025/3	2026/3	増減
	営業キャッシュ・フロー	934	678	△256
	投資キャッシュ・フロー	△479	△477	+2
フリーキャッシュフロー		455	201	△254
財務キャッシュ・フロー		△489	△228	+260
その他		△3	47	+51
現金及び現金同等物の増減額		△36	21	+57
現金及び現金同等物の当期末残高		648	668	+21

セグメント別 売上高・営業利益

単位：億円	売上高			
	2026/3 実績	2027/3 予想	増減	増減率
ハイパフォーマンスポリマーズ	2,215	2,290	+75	+3.4%
マテリアル	1,959	1,940	△19	△1.0%
セイフティ	1,042	1,095	+53	+5.1%
スマート	377	390	+13	+3.3%
ライフサイエンス	184	215	+31	+17.1%
その他事業	20	20	△0	△1.0%
合 計	5,796	5,950	+154	+2.7%

単位：億円	営業利益			
	2026/3 実績	2027/3 予想	増減	増減率
ハイパフォーマンスポリマーズ	191	215	+24	+12.8%
マテリアル	148	107	△41	△27.6%
セイフティ	61	77	+16	+26.3%
スマート	5	10	+5	+86.6%
ライフサイエンス	9	13	+4	+49.9%
その他事業	7	3	△4	△59.2%
合 計	421	425	+4	+1.0%

EBITDA	
2026/3 実績	2027/3 予想
317	343
337	293
140	168
30	35
20	23
11	8
854	870

※2027年3月期業績予想には中東情勢の悪化の影響を織り込んでおりません。
なお、前年度比較のため、2026年3月期実績は、セグメント変更を反映しています。

設備投資額・減価償却費・研究開発費

	設備投資額		減価償却費		研究開発費	
	2026/3 実績	2027/3 予想	2026/3 実績	2027/3 予想	2026/3 実績	2027/3 予想
単位：億円						
ハイパフォーマンス ポリマーズ	355	270	124	125	71	84
マテリアル	236	230	188	185	43	50
セイフティ	96	70	78	90	77	85
スマート	24	35	24	25	41	40
ライフサイエンス	14	25	11	10	22	25
その他事業・全社	4	5	4	5	2	1
合 計	728	635	429	440	256	285

※前年度比較のため、2026年3月期実績は、セグメント変更を反映しています。

ダイセルグループは、長期ビジョン『DAICEL VISION 4.0』を策定し、サステナブルな社会と当社グループの事業成長の両立を目指し、歩みを進めています。この目標の達成には、大量生産・大量消費を前提とする今までの社会システムから脱却し、4つの大きな構造転換（以下図）を実現することが必要になると考えています。私たちダイセルは、志を共にするパートナーの皆様と共に、循環型社会の構築に貢献していきます。

長期ビジョン・中期戦略で掲げた、ダイセルが循環型社会構築に貢献するために実現する構造転換



新企業集団の形成

社会構造を変えていくためには、社会や環境のために新たな価値を共に創造できる集団「新企業集団」を形成することが不可欠です。私たちが手掛けるモノづくりは、最終製品に至る工程の一つにすぎず、その工程がいくつもつながりサプライチェーンを形成します。そこでつながる各社の得意分野を掛け合わせれば、一社が試行錯誤する以上に、効率的なモノづくりが可能になり、さらにより良い製品や環境にやさしい製造方法を生み出すことができます。こうした企業間による垂直のつながりに加えて、同業他社のような水平方向でもつながる新たな集団のことを「クロスバリューチェーン」と呼びます。以下の図は、このクロスバリューチェーンに至るまでの道のりを、ダイセル単体→ダイセルグループ→パートナーへと範囲を広げる3つのオペレーション（以下、OP）で段階的に示したものです。

成長と加速曲線

【実現のためのオペレーション】

Operation-I(OP-I) 原ダイセル

現状の事業に加え注力するドメインを含めた領域

- 事業構造の転換(事業の選択と集中⇒価値提供型組織へシフト)
- アセットライト化
- OP-II/IIIの成長を加速させる構造改革

Operation-II(OP-II) 新ダイセル

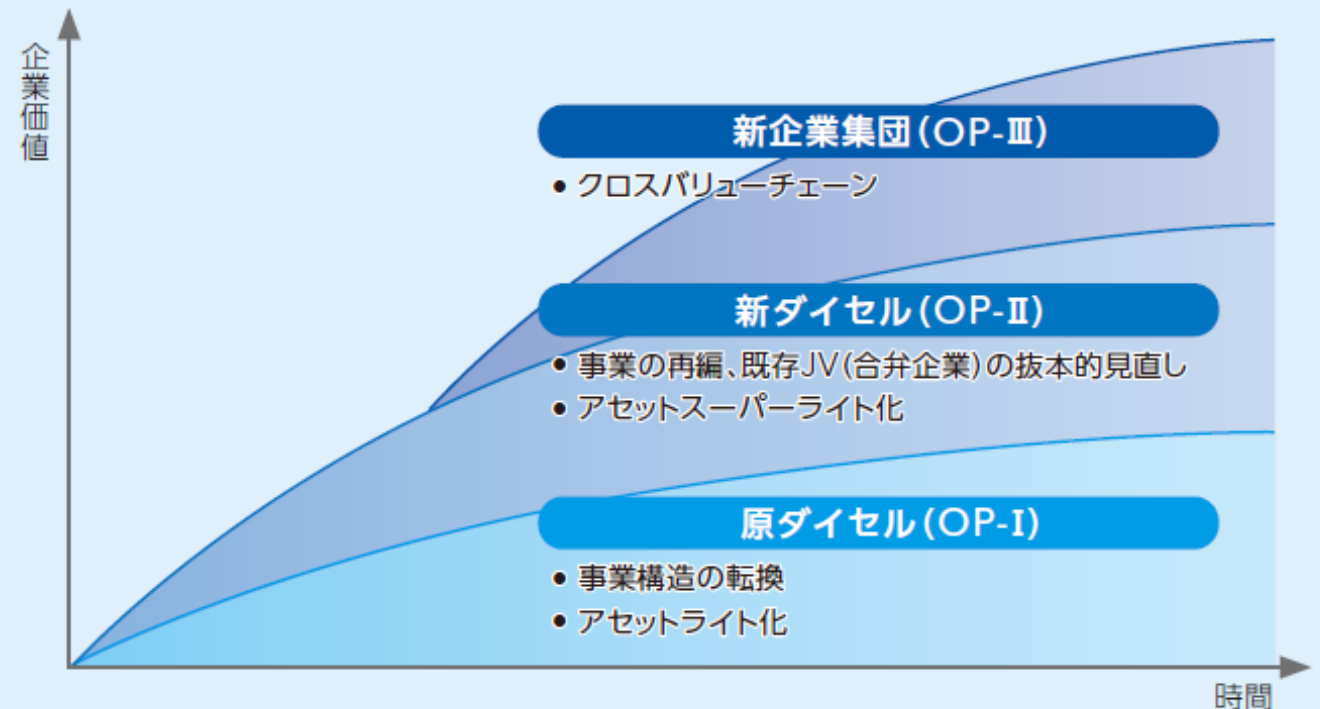
既存事業の周辺領域でM&Aや提携による領域拡大

- 事業再編、既存JVの抜本的見直し
- アセットスーパーライト化
- OP-IIIが狙える高付加価値企業

Operation-III(OP-III) 新企業集団

垂直統合型のサプライチェーンに水平方向の統合を視野に入れたクロスバリューチェーン

- M&Aにこだわらず、多様なつながりでNo.1サプライチェーンを構築



バイオマスバリューチェーン構想

国土の約7割が森林である日本。樹齢50年超の森林はCO₂を吸収せず、ほとんどが放置されています。溶かすことが難しい木材を穏和な条件と環境負荷が少ない方法で溶かす技術を開発し、森の木を石油化学原料の代替として活用。CO₂を吸収しやすく、土壌の保水能力が高い森林に再生、産業資源を循環させる。それが、ダイセルの掲げる「バイオマスバリューチェーン（以下、BVC）構想」です。循環型の産業生態系をつくるこのビジョンの達成には、多くの方々からの賛同と共感、産業間の連携による共創が不可欠です。



林業再生による「森の復活」



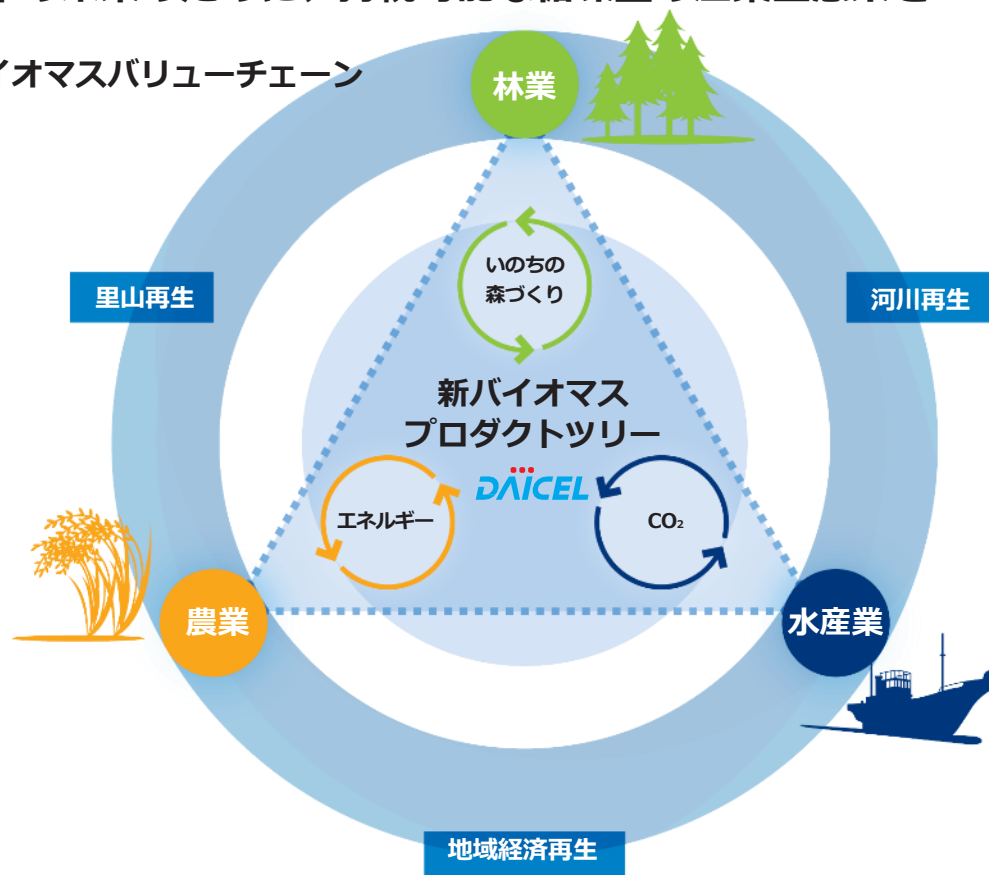
水質改善による「海洋資源の再生」



落葉広葉樹林帯の再生による「農地の肥沃化」

日本の未来のために、持続可能な循環型の産業生態系をつくる。

バイオマスバリューチェーン



新バイオマスプロダクトツリー

BVC構想を実現する鍵となるのが、「新バイオマスプロダクトツリー」です。サステナブルなプロダクトを提供することは、素材メーカーの使命です。しかし、そのプロセスもサステナブルでなければなりません。一本の木を少しも無駄にしないことをテーマに、環境負荷を極力抑えながら、あらゆる素材を丸ごと加工する技術を開発し、天然素材でも高機能なプロダクトを生み出します。設立以来、バイオマス原料を扱ってきた当社だからこそ、カーボンニュートラルを実現し、化学の力でエコロジーとエコノミーを両立させながら循環型社会の構築を目指すことは、当然の成り行きです。

産学連携による共同技術開発

エコロジーとエコノミーの両立、新バイオマスプロダクトツリーの実現に向け大学との技術連携を進めています。たとえば、化学プラントの小型化の鍵となる「マイクロ流体デバイス」（P32参照）や、低コストかつ低環境負荷で木材を分解する「超穏和溶解」などが挙げられます。

4つの注力領域による幸せの提供

ダイセルは社会と人々の幸せに貢献するモノづくりを目指しています。長期ビジョンでは、数ある社会課題の中から、今後ニーズが高まり、かつ、当社グループの強みを生かせるという観点から4つの注力領域「健康」「環境」「安全・安心」「便利・快適」と、それぞれの分野で注力する市場を定めています。

健康

【ライフサイエンス事業】

医療機器事業

～ONE TIME ENERGY®・分離精製技術の活用～

- 無針投与デバイス（アクトランザ®ラボ・ダイセルインジェクター）
- ダイセン・メンブレン技術を活かしエクソソーム分離精製装置の上市によるバイオ医薬市場への参入

健康食品事業

～バイオ（微生物）発酵技術の活用～

- エクオール
- ウロリチンA



ダイセル
インジェクター



エクソソーム分離精製装置

環境

【マテリアル事業】

～環境にやさしい素材でマーケットに訴求～

- 海洋生分解性樹脂 CAFBLO®
- 真球微粒子 BELLOCEA®

【ハイパフォーマンスポリマーズ事業】

～エンジニアリングプラスチックで環境付加価値を提供～

- 環境対応包装向けCOC樹脂
- 環境配慮型製品・技術・サービスをDURACIRCLE®※1として価値提供



CAFBLO®用途例（ランプシェード）

安全・安心

【セイフティ事業】

～インフレータ技術をベースとした新規事業の展開～

- テザーリリサー、フードリフター、eVTOL電流遮断などモビリティの安全・安心を実現する新規事業を創出
- ESS※2やデータセンター向け電流遮断などインフラの安全分野に参入
- 保護ウェアラブルをはじめ日常生活の安全領域へ展開



ESS電流遮断



ウェアラブルエアバッグ

便利・快適

【ハイパフォーマンスポリマーズ事業】

～エンジニアリングプラスチックで高速通信市場に貢献～

- 液晶ポリマー（LCP）
- ポリフェニレン・サルファイド（PPS）

【スマート事業】

～素材×加工技術の組み合わせによる展開～

- エポキシ樹脂×高機能フィلم

～マイクロ流体デバイスによる半導体用ポリマーの生産～



マイクロ流体デバイスによる生産設備

Topic 1 エコロジーとエコノミーの両立

— 大量生産・消費から個別オーダー・個人生産へ —

環境にやさしいプロセスで作る環境にやさしい製品を目指す

ダイセル独自の溶かす技術を化学プラントに応用したのが「マイクロ流体デバイス」です。マイクロ流体デバイスでは、不純物の発生が抑えられ、内臓する流路の精密なコントロールが可能になりました。これにより、設備コストの圧縮だけでなく、さらなる省エネ、省スペース、省資源化が見込まれます。

個人や家庭、地域単位でモノづくりの楽しさが享受できる社会へ

現在の化学 プラント

エネルギー多消費大量生産
重厚長大な設備（大規模精製工程）
温度・濃度 分布大
目的のモノだけを作れない（低効率）

マイクロ流体 デバイス

必要なときに必要な場所で生産
小型・卓上化（精製工程不要）
温度・濃度 分布極小化
目的のモノだけを作る（理想的な反応）

●大規模工場が不要

●大規模物流が不要

●プラントの危険性回避

●一極集中から分散へ

●移動しながら製造も可能

●極少滞留量のため安全性増大

Topic 1 エコロジーとエコノミーの両立

ー 大量生産・消費から個別オーダー・個人生産へ ー

マイクロ流体デバイスプラントの特長

①生産設備の超小型化

名刺サイズのガラス板をつなぎ合わせ、1つのユニットを構成。ガラス板の流路のデザインを組み合わせることであらゆる化学製品に対応でき、1ユニットを並列化することで生産量を増やすことが可能。さらに、実験室での結果を工業化する際もガラス板の数を増やすだけで再現可能。

②エネルギーレス化

超微細な流路の中では、温度や圧力にムラがなくピンポイントかつスピーディに狙った反応を生み出すことが可能。ムダな反応も起こりにくいため生産物の純度が高く、余計なものを分離する後工程も不要。新井工場のレジストポリマー製造プラントに実装した場合、エネルギー使用量・CO₂排出量共に90%以上削減できると見込む。

③生産拠点の自由化

超小型・エネルギーレス・低コストで設備が構築できるため、生産拠点の自由度が飛躍的に高まる。原料のある場所に生産拠点を置くことで地産地消が容易になり、輸送にかかるコストやエネルギーも大幅に削減。

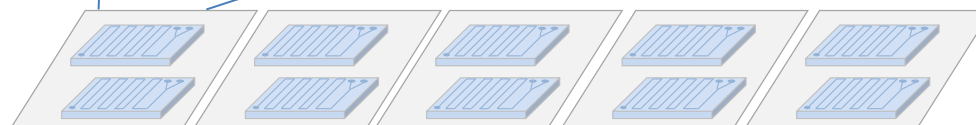
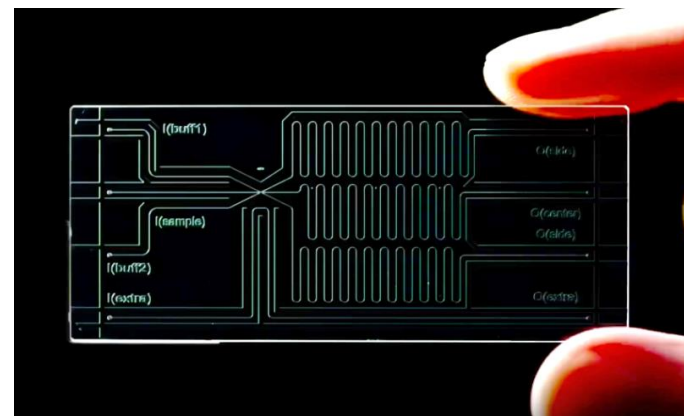
【開発・導入スケジュール】

2026年度 新井工場 半導体用ポリマーの試験生産

2028年度 大竹工場 過酢酸誘導体用ベンチ設備導入

[マイクロプラント | 株式会社ダイセル](#)

流路サイズ：数十～数百μm×数m



1流路＝10枚直列(10D)

Topic 2 循環型社会の実現に向けた取り組み

CO₂を資源に変える「ナノダイヤソリューション」と「溶かす技術」で得られる新素材

世界初、「太陽光」でCO₂を半永久的に分解する技術

ダイセルは、エアバッグ用インフレータの製造技術で培った火薬工学技術を応用し、極めて高効率にナノダイヤを生成できる技術を獲得し、その応用開発を進めることで、太陽光だけでCO₂を分解する技術を確認しました。CO₂分解の際、大量の電力を使わず、太陽光を照射するだけで周囲の空間に生成される水和電子によって、高効率でCO₂を一酸化炭素と酸素に分解し続けられることも実証しています。ナノダイヤは硬く、化学的な安定性があり、いかなる酸やアルカリとも反応しない特性を持つ、3～5ナノメートルの超極小微粒子で、その反応は半永久的に継続します。2027年度に網干工場でパイロット設備設置を予定しており、2030年度以降、自社および他社で商業稼働を開始させる計画です。

新バイオマスプロダクトツリーの鍵となる技術

これまで、木材よりも石油化学樹脂が普及してきたのは、液体の石油は固体の木より溶けやすく、様々な反応物を低コストで容易に作れるためでした。この課題を乗り越えるべく、当社は大学との共同研究を通じて、より少ないエネルギーで「木材を溶かす」技術開発に努めてきました。これが確立すれば、広範な分野で新たなバイオマス製品群が創出され、石油化学製品の代替や補完の可能性が見えてきます。2028年度に金沢大学BGICにて実証設備の設置を予定しており、2030年度には地域実装プロセスの運転開始を目指しています。

● 開発事例（木材から生まれた新素材MoCA※）

木材に含まれるリグニンなどを選択的に溶解し、セルロースを分離する技術を確認することで、新素材MoCAの抽出に成功しました。



木粉



木粉から分離した新素材MoCA

※ Molecular Cellulose Assembly : 分子性セルロース集合体

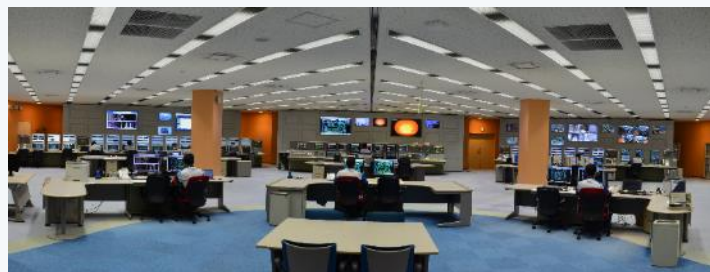
ダイセル式生産革新 / 自律型生産システム

ダイセルでは、ダイセル式生産革新と自律型生産システムを通じて、モノづくりの在り方を変革し、持続的な競争力の向上を実現しています。

ダイセル式生産革新

2000年 網干工場で確立

- バリューチェーン全体の最適化をめざし、工場全体の運営・運転を最適化する取り組み
- 業務におけるムダ・ロスを抽出して徹底的に排除し、熟練オペレータが持つ工場運転に関する**840万件以上**のノウハウを顕在化、更にシステム化することで誰もが使い後戻りのない仕組みへ
- 2000年3月に網干工場に完成した統合生産センターの稼働を経て、工場の全体最適を実現。その後、社内外の各工場へも展開し最適化範囲を拡大中



統合生産センター

主な成果

- 人の生産性 約3倍に向上※1
- オペレータ作業負荷 10分の1
- 素材・エネルギー企業を中心に17社・24事業場が導入

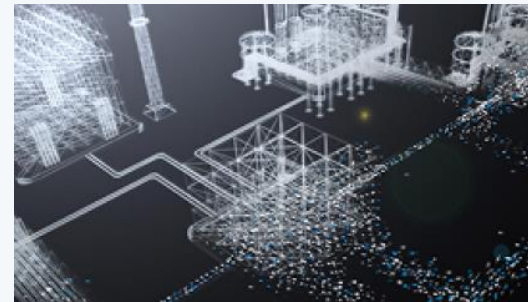
※1 ダイセル網干工場での実績

[ダイセル式生産革新TOP](#) | 株式会社ダイセル

自律型生産システム

2020年 開発、網干工場から実装を開始

- ダイセル式生産革新を、東京大学と共同開発した独自のAI技術で高度化した生産システム
- 熟練オペレータのノウハウに加え、**約20年**にわたり蓄積した生産運転データやリアルタイムデータ、化学工学の原理原則を統合的に演算
- データとノウハウの組み合わせでトラブルの予兆をリアルタイムに連続監視し、現場対応を事後から予防へ
- 天然原料など必ずしも品質が均一でない原料や、生産を行う中での設備の状態変化などにも対応し、品質とコストを予測しながら最適、安定生産を実現



主な成果

- 品質の安定化や生産性の向上
- 設備トラブルを未然に防ぐ予防保全による修繕費の適正化
- 生産の安定や効率向上による在庫削減

[自律型生産システム](#) | 株式会社ダイセル

ダイセルグループの挑戦

設立当時から他者との共存精神を大切にしてきたダイセルは、人々の暮らしを豊かにすることを目指して、100年以上も社会に役立つ素材を開発・提供してきました。私たちの社会や環境をとりまく状況は、大きな変化を迎えています。そういった中でも、ダイセルは循環型社会構築に向けて日々研究開発を行い、同じ志を抱く仲間とともに価値の共創を広げています。これからもダイセルは無限に広がる化学の可能性を信じ、世界に誇れるモノづくりを次の時代に繋ぐため、勇気を持って変革に挑戦し続けます。



自律型生産システム

独自AIで化学プラントの運転を最適化



ダイセル式生産革新

全体最適の視点で世の中のバリューチェーンを革新



ナノダイヤソリューション

例えば「太陽光超還元」カーボンネガティブを実現する技術



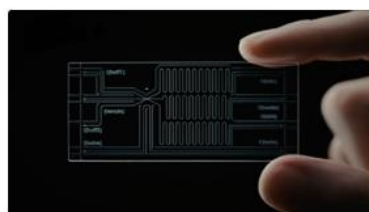
DAISI®

ただ一度だけ、瞬時に確実に動力を生み出す「ワンタイムエナジー®」



アクトランザ® ラボ

薬液が皮膚を透り、狙った細胞内に届く。革新的ドラッグ・デリバリー・システム ※動物実験用



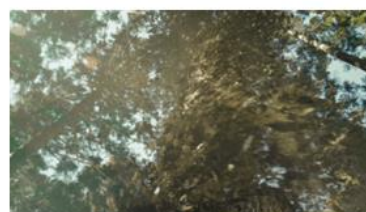
マイクロプラント

究極のエネルギーレス工場を実現する技術



ナノひっつき虫™

古代より私たちの生活に深く関わるセルロース。半導体製造に新しい可能性



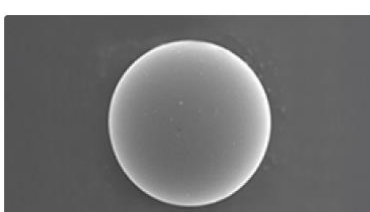
森林化学

木材を環境負荷なく溶解する技術



CAFBL0®

海洋分解性に優れ環境に優しい天然由来の酢酸セルロース



BELLOCEA® S7

化粧品になめらかさとしっとり感を与える、海洋分解性に優れた酢酸セルロースの球状粒子

長期VISION

カーボンニュートラルの実現に向けて

ダイセルでは、2050年度までに、バリューチェーン全体で温室効果ガス排出量のネットゼロを達成するため、脱炭素化への取り組みを推進しています。そのための施策として、プロセス・生産・エネルギーなどの分野における技術革新を相互に連動・促進させながら、当社の目指すバイオマスバリューチェーンを構築し、CO₂排出量が吸収量を下回る「カーボンネガティブ」を達成します。当社グループは、技術革新によりエコロジーとエコノミーの両立を実現していきます。

SBTiに認定された目標 (2026年4月取得済)

短期目標

2030年度までに (2018年度比)

- ・ スコープ1およびスコープ2の温室効果ガス排出量を**50%**削減
- ・ スコープ3 ^{*1} (原材料等の調達、燃料・エネルギー調達、物流) の温室効果ガス排出量を**30%**削減

ネットゼロ目標

2050年度までに、バリューチェーン全体で温室効果ガス排出量の**ネットゼロを達成**

^{*1} : カテゴリ1・3・4の合計排出量で30%削減することを目指す

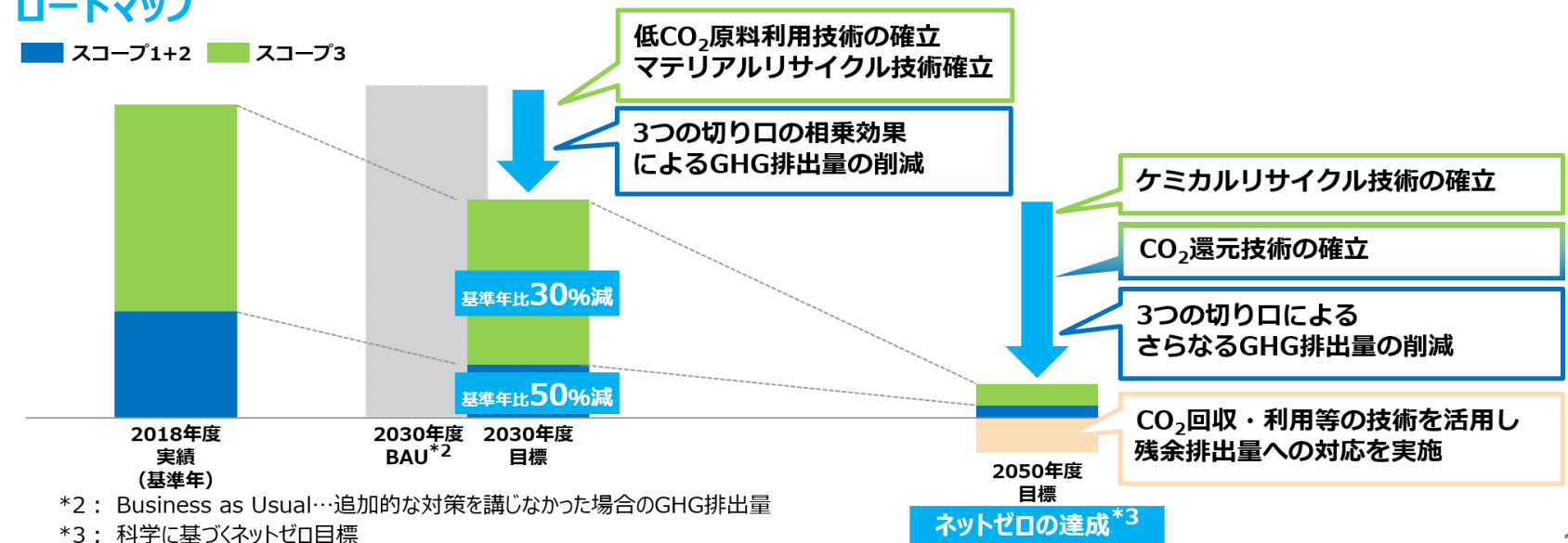


3つの切り口

現行生産プロセス における GHG排出量削減	自律型生産システム
革新的技術 による GHG排出量削減	太陽光超還元® マイクロ流体デバイス
エネルギー供給部門 による GHG排出量削減	ボイラー燃料転換 再生可能エネルギー

ロードマップ

■ スコープ1+2 ■ スコープ3

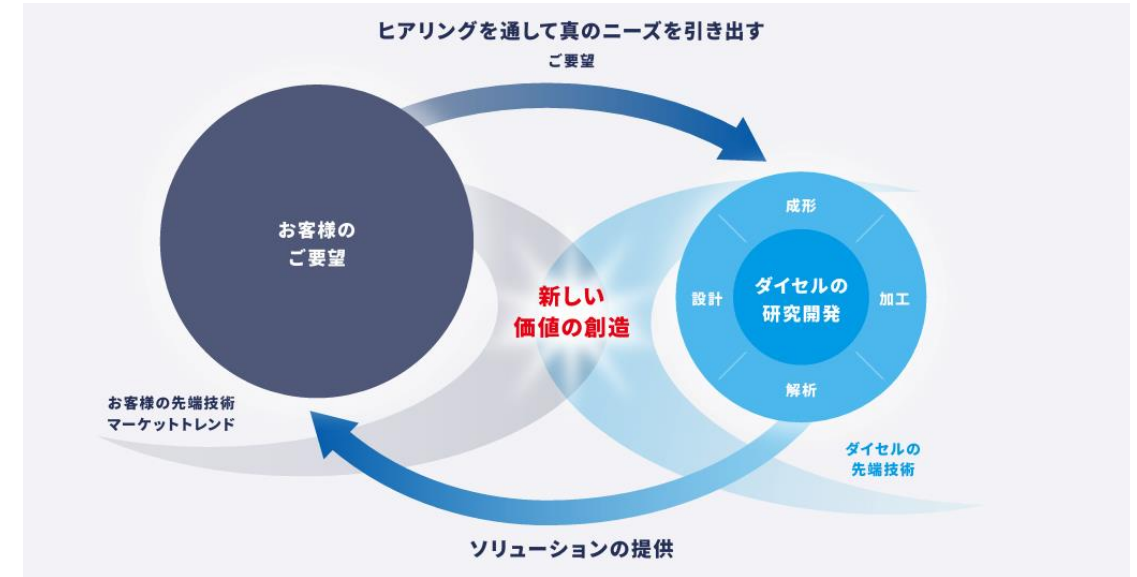


Appendix 製品編

ハイパフォーマンスポリマーズ事業

◇ 事業の特徴

- 半世紀以上にわたり、エンブラのスペシャリストとしてお客様と共に時代のニーズに即したアプリケーションを開発してきた知識、経験、実績
- アジアや欧米6拠点に展開するテクニカルソリューションセンターでグローバルに連携し、素材の処方設計から成型加工まで一気通貫したサポートが可能
- グローバル市場で高いシェア（POM、LCP）



市場・顧客ニーズをエンブラへの要求に分解し、ユーザーのコンセプトを形状にする。
お客様が製品を構想した段階から、量産ラインが安定稼働するまで、常に伴走し続ける共創パートナー。

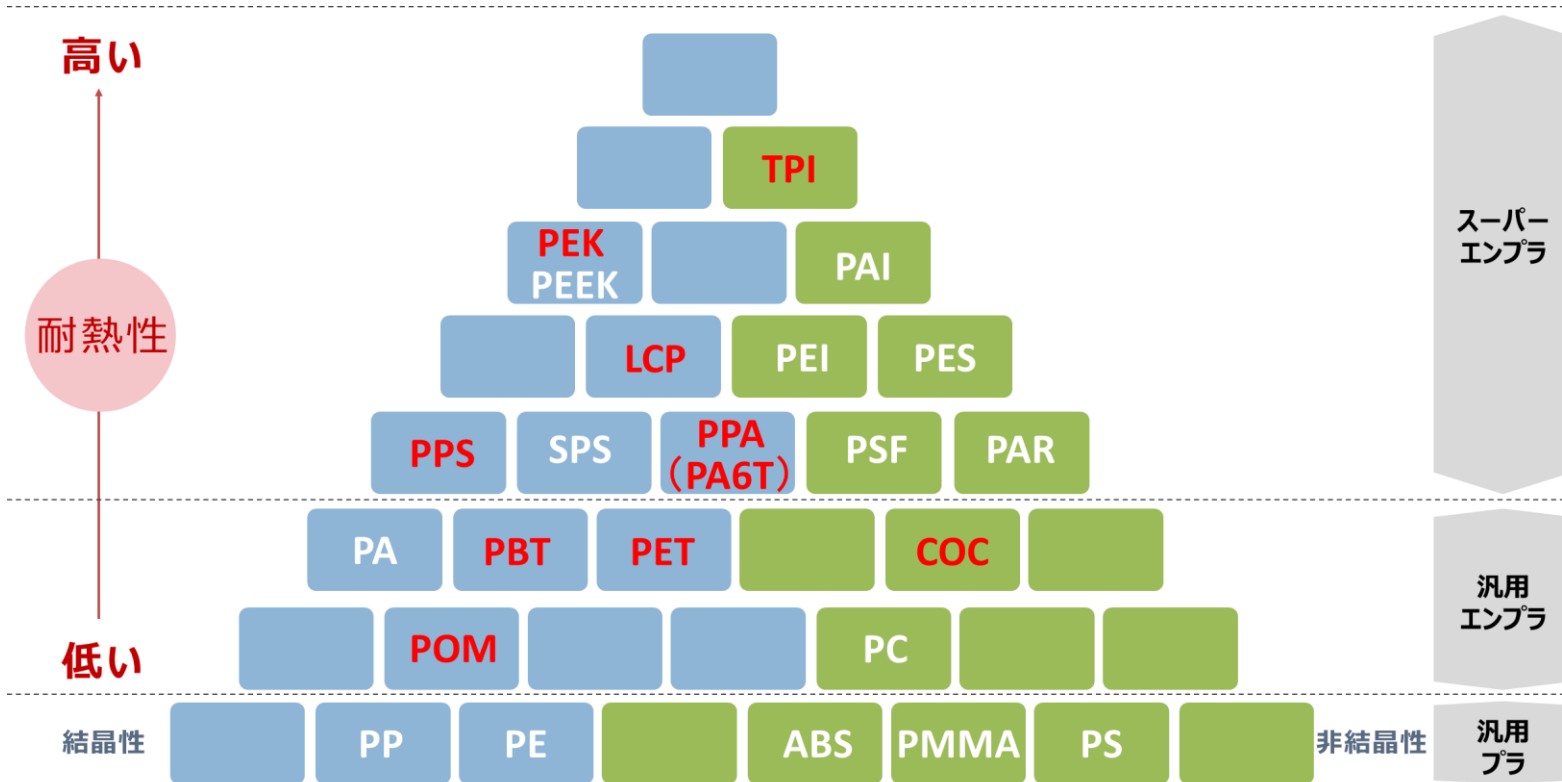
◇ 参考

- | | |
|----------|---|
| 1964年5月 | エンジニアリングプラスチック事業に特化したポリプラスチックス株式会社を設立（セラニーズ45%、ダイセル55%） |
| 2020年10月 | セラニーズと合併解消しダイセル100%子会社化 |
| 2026年4月 | ダイセルグループへ経営統合 |
| | ポリプラスチックス社の強みとダイセルグループの経営資源を融合し、グループシナジーの最大化を図る |

ハイパフォーマンスポリマーズ事業



高耐熱など様々な機能が求められるエンブラの提供力を最大化するための幅広いポートフォリオ



DURACON®

ポリアセタール (POM)

DURANEX®

ポリブチレンテレフタレート (PBT)

DURAFIDE®

ポリフェニレンサルファイド (PPS)

LAPEROS®

液晶ポリマー (LCP)

TOPAS®

環状オレフィンコポリマー (COC)

ARLEN®

高耐熱ポリアミド (PA6T)

PLASTRON®

長繊維強化熱可塑性樹脂 (LFT)

RENATUS®

ポリエチレンテレフタレート (PET)

SARPEK®

ポリエーテルケトン (PEK)

DURAST®

エンブラファインパウダー

AURUM®

熱可塑性ポリイミド (TPI)

- ・DURACON®, ジュラコン®は、株式会社ダイセルが日本その他の国で保有している登録商標です。
- ・RENATUS®, レナタス®は、株式会社ダイセルが日本その他の国で保有している登録商標です。
- ・LAPEROS®, ラペロス®は、株式会社ダイセルが日本その他の国で保有している登録商標です。
- ・PLASTRON®, プラストロン®は、株式会社ダイセルが日本その他の国で保有している登録商標です。
- ・SARPEK®, サーベック®は、株式会社ダイセルが日本その他の国で保有している登録商標です。
- ・AURUM®, オーラム®は三井化学株式会社の商標です。

- ・DURANEX®, ジュラネックス®は、株式会社ダイセルが日本その他の国で保有している登録商標です。
- ・DURAFIDE®, ジュラファイド®は、株式会社ダイセルが日本その他の国で保有している登録商標です。
- ・TOPAS®, トパス®は、TOPAS Advanced Polymers GmbHがドイツ、米国その他の国で保有している登録商標です。
- ・DURAST®, ジュラスタ®は、株式会社ダイセルが日本その他の国で保有している登録商標です。
- ・ARLEN®, アーレン®は三井化学株式会社の商標です。

POM(ポリアセタール)

世界シェア
No. 2

◇ 製品の特徴

- ・主原料：メタノール
- ・バランスのとれた機械特性、抜群の摺動特性、摩擦磨耗特性、耐薬品性（油、溶剤）、ばね弾性
- ・EV化に向けた用途開発（例：熱源のないBEV※¹専用部品）
- ・製品機能に加え、国際規格に準拠した試験や認証に対応している医療グレードを提供
- ・環境配慮型メタノールを原料とした製品の提供により、PCF※²を低減

※1 BEV : Battery Electric Vehicle ※2 PCF : Product Carbon Footprint

◇ 主用途

- ・自動車用途
- ・諸工業用途



ドアロック



フューエルポンプモジュール



ペンインジェクター

PBT（ポリブチレンテレフタレート）

◇ 製品の特徴

- ・ 主原料：テレフタル酸、1,4ブタジオール
- ・ 優れた電気特性と寸法安定性、高耐熱性を持ち、電子デバイス・電装品や半導体製造装置に使用される
- ・ 従来の車載コネクタに加え、ADAS（先進運転支援システム）/電動化対応での販売機会拡大

◇ 主用途

- ・ 自動車用途
- ・ 電気/電子用途
- ・ 諸工業用途



小型スイッチ



端子台※



車載センサー

※端子台：電線と電線、電線とプリント基板など、回路を形成する上での中継を行うためのパーツ。

PPS（ポリフェニレンサルファイド）

◆ 製品の特徴

- ・ 主原料：パラジクロロベンゼン、硫化ソーダ
- ・ 耐熱性、耐ヒートショック性、電気特性（高体積抵抗率、低誘電率 等）を持つ
- ・ 高い寸法安定性を活かし、AIサーバー内などの通信の安定性・信頼性の向上に寄与
- ・ PCU※、モーター、冷却装置部品などのEV/HEVの基幹部品への採用拡大

※ PCU（Power Control Unit）:モーターを利用して走るハイブリッド車や電気自動車の電力を適切にコントロールするために開発された、パワーコントロールユニット

◆ 主用途

- ・ 自動車用途
- ・ 諸工業用途
- ・ 電気/電子用途



HEV モーター
インシュレーター



電動VTC※1



光コネクタ部品※2

※1 VTC(Variable Timing Control):吸気/排気バルブの開閉タイミングをエンジンの運転状況に応じて制御するシステム。

※2 画像はMicrosoft 365 Copilotにより生成。

LCP（液晶ポリマー）

世界シェア
No.1

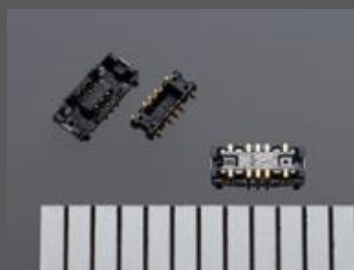
◇ 製品の特徴

- ・ 主原料：p-HBA(パラヒドロキシ安息香酸)、6,2-HNA（6-ヒドロキシ-2-ナフト工酸）
- ・ 高い薄肉流動性(高い流動性を有し、成形条件幅が広く、様々な形状に適応可能)
- ・ SMT※対応可能な高耐熱性、高剛性、電気特性（低誘電率、低誘電正接等）
- ・ AIサーバーや高速通信用途での採用拡大

※ SMT（Surface Mount Technology）：表面実装技術で、電子部品を基板に実装する方法で、あらかじめ基盤にはんだを転写し、電子部品搭載後に加熱し、はんだ付けを行う。

◇ 主用途

- ・ 電気/電子用途
- ・ 自動車用途



狭ピッチコネクタ



マイクロUSBコネクタ



HEVパワーモジュール
ケース



クーリングファン※1

※1 画像はMicrosoft 365 Copilotにより生

COC(環状オレフィン・コポリマー)

◇ 製品の特徴

- ・ 主原料：エチレン、ノルボルネン
- ・ 透明性、高純度、低吸着性を有し、医療・包装分野で幅広く採用
- ・ FDAをはじめとする各国の食品・医療用途規制に対応
- ・ PEやPPとの組み合わせにより、モノマテリアル包装の高機能化とリサイクル性向上に貢献
- ・ 水に浮くPOシュリンクラベルなど、包装の資源循環を支えるソリューションとして展開

◇ 主用途

- ・ パッケージ用途
- ・ 医療用途



プレフィルドシリンジ



医薬品用包装



ペットボトル用
シュリンクラベル

マテリアル事業

【アセチル事業】

アセテート・トウ

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 主原料：酢酸セルロース（自社製造）
- ・ 世界シェアトップクラス（国内唯一のサプライヤー）
- ・ 主要顧客は世界大手のたばこメーカー。高品質と安定供給で信頼関係を長期間にわたり構築
- ・ 製造量の大部分を輸出。アジアを中心にヨーロッパや中東にも供給
- ・ 以下の背景により、アセテート・トウの需要はたばこ需要を上回って推移
 - ✓ 従来フィルターが使われていなかった地域でフィルターが実装
 - ✓ 健康志向からフィルターが長尺化
 - ✓ 今後成長が期待される加熱式たばこもアセテート・トウを使用

◇ 主用途

たばこ用フィルター

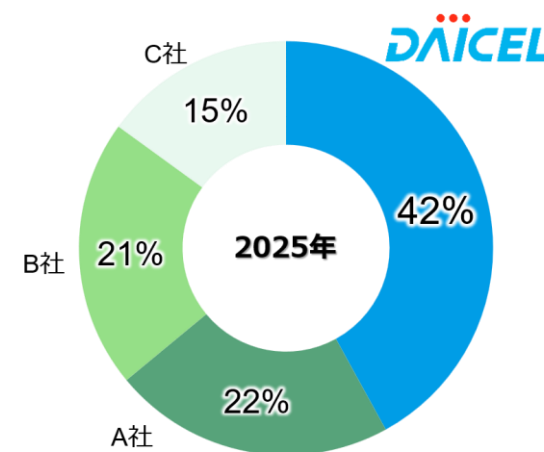
◇ 製造拠点

網干工場（兵庫県）、大竹工場（広島県）、富山フィルタートウ株式会社（富山県）



アセテート・トウ

大手たばこ会社4社に対するシェア



マテリアル事業

【アセチル事業】

酢酸セルロース

二酢酸セルロース（DAC=Di-acetyl cellulose）、
三酢酸セルロース（TAC=Tri-acetyl cellulose）を展開

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 主原料：セルロース（木材パルプ、コットンリントー）、無水酢酸（自社製造）
- ・ 製造量の多くをアセテート・トウの原料として自家消費
- ・ バイオマス・リサイクル・海洋生分解性を特徴としたCAFBLO®樹脂を開発

◇ 主用途

DAC：（自家消費） アセテート・トウ、（外販）プラスチック

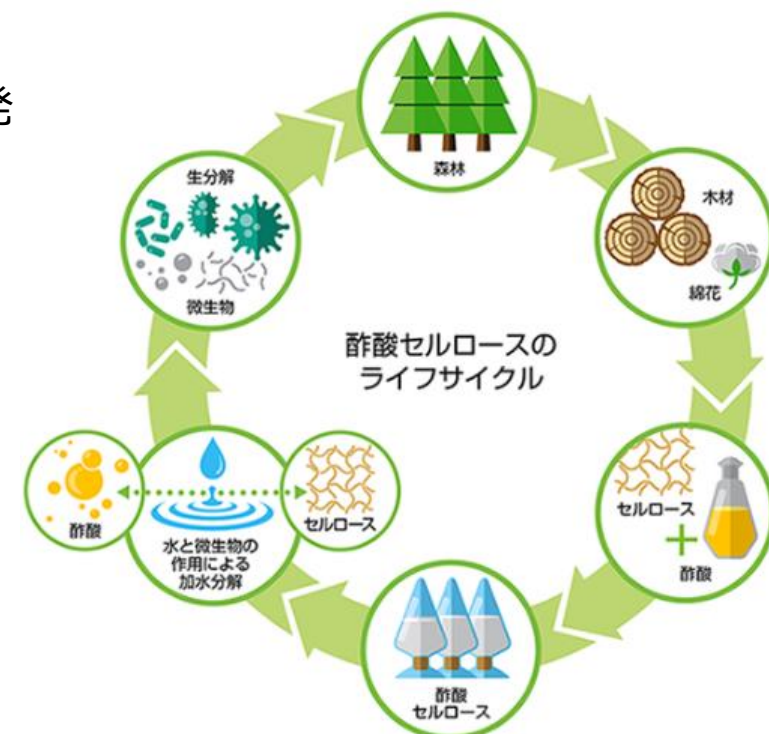
TAC：（外販） TACフィルム、繊維（次頁参照）

◇ 製造拠点

網干工場（兵庫県）、大竹工場（広島県）



CAFBLO®用途例



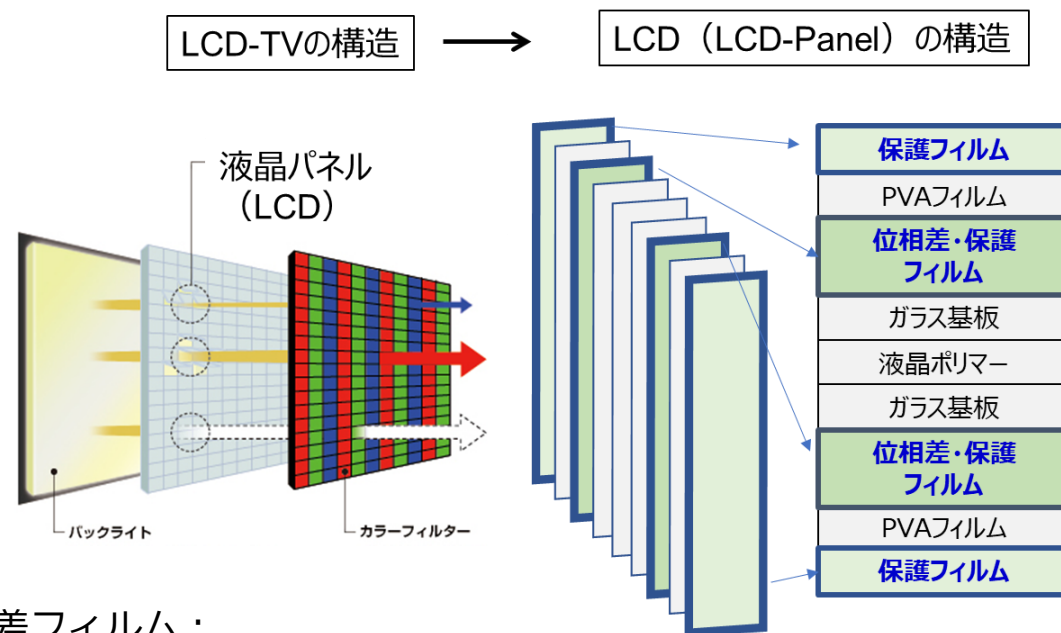
マテリアル事業

【アセチル事業】

酢酸セルロース

◇ 液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）の特徴

- 主原料：セルロース（木材パルプ、コットンリントー）、無水酢酸（自社製製）
- 世界シェア：TACサプライヤーとしてトップシェア
- TACの主用途である偏光板保護フィルム及び位相差フィルムは、光線透過率など光学特性に優れた機能を有する
- 製法改善により品質のばらつきがある天然原料の使用範囲を広げながら、品質・供給の安定性、競争力をさらに強化



位相差フィルム：
光が液晶層を通るときに生じる複屈折光をフィルムの位相差で補正し、
液晶パネルの視野角拡大を実現

マテリアル事業

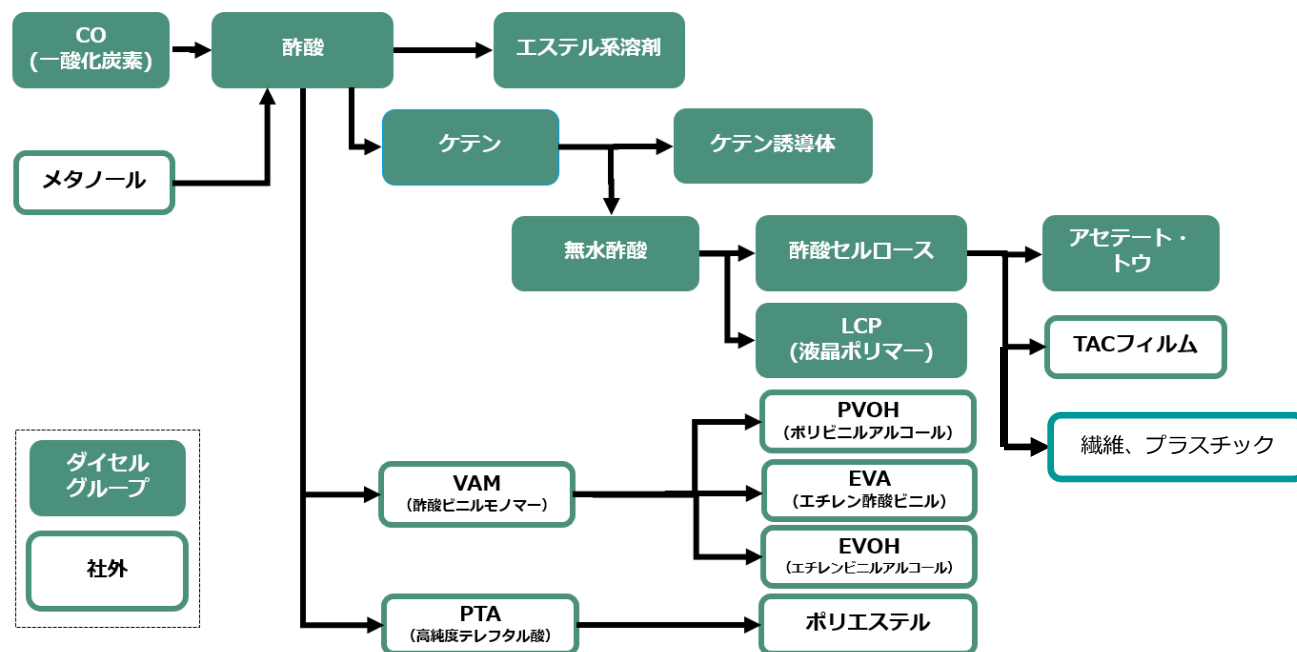
【ケミカル事業】

酢酸

国内シェア
No.1

◇ 製品・事業の特徴

- 当社アセチルチェーン（右図）のコア製品
- 製法：メタノール法
（メタノールと一酸化炭素を反応）
- 国内唯一のメーカー
- 2024年2月、一酸化炭素製造プラント更新
（老朽化更新・原料転換/アスファルトから石炭へ切り替え）
- 製造する酢酸のうち半分を酢酸セルロースやエステル系溶剤などの原料として自家消費
- 顧客や当社グループ工場で副生される酢酸を回収・再利用する循環システムを確立



マテリアル事業

【ケミカル事業】

1,3-BG（1,3ブチレングリコール）

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 無臭グレード品は、強い香料を好まないアジア化粧品市場で高い評価
- ・ 大竹工場と網干工場の2拠点で安定供給を実現
- ・ 日本、韓国、中国が化粧品向けの主力市場であるが、無臭グレードの市場浸透と合わせて、市場規模が大きい中国、欧米でのシェア拡大に注力

◇ 主用途

化粧品（保湿機能、抗菌機能）、工業用（ウレタン原料、樹脂可塑剤、木材湿潤剤）

◇ 製造拠点

大竹工場（広島県）、網干工場（兵庫県）
（2022年8月より網干工場にて新プラント稼働）

BELLOCEA®（酢酸セルロース真球微粒子）

◇ 製品・事業の特徴

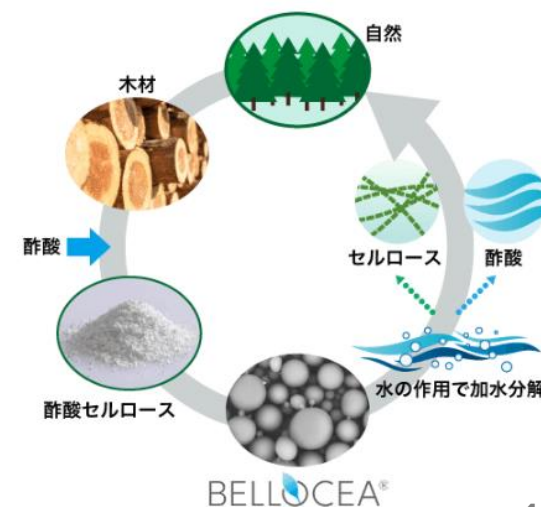
- ・ 酢酸セルロースを真球状微粒子に加工
- ・ 海洋生分解性を持ち、化粧品業界の海洋プラ問題解決貢献に期待
- ・ 欧州規制（OECD301F認証）対応グレードを2025年3月期に上市
- ・ 欧州では2035年マイクロビーズ使用の化粧品禁止を発表し、大手での代替品の使用拡大

◇ 主用途

化粧品の感触改良剤として、ファンデーション、サンスクリーンなど



1,3-BG 化粧品用途イメージ



セーフティ事業 製品用途例



助手席エアバッグ用インフレーター

パイロ方式



運転席エアバッグ用インフレーター

パイロ方式



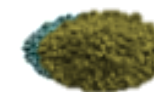
サイド・カーテン・ニー エアバッグ用インフレーター

ハイブリッド方式

※サイドはパイロ方式を含む



ガス発生剤



イニシエータ



EV/HEV/PHEV用
電流遮断器 (PDD)



シートベルトプリテンショナー用
マイクロガスジェネレータ (PGG)



セーフティ事業

自動車エアバッグ用インフレーター

国内シェア
No.1

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 1988年にエアバッグ用インフレーターを事業化して以来、主要構成部品であるイニシエータ、ガス発生剤を一貫生産
- ・ エアバッグ用インフレーター専門メーカー
- ・ 新興国での成長需要を確実に取り込むことで2030年度に世界シェア30%を目標
- ・ 中国市場での中国系OEM向けのさらなる拡販、インド市場での拡大
- ・ ダイセル式生産革新の考え方をベースにトヨタ生産方式を応用し、高い品質と生産性を追求

◇ 製造拠点

日本（兵庫県）、中国、北米（アリゾナ）、ポーランド、タイ、インド
（生産地統廃合を進め、2022年に韓国拠点を閉鎖、2023年に北米ケンタッキー拠点での製造終了。
一方、2023年10月にさらなる市場の成長が期待されるインドにて新製造拠点が商業運転開始）



インフレーター

電流遮断器

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 高出力のガス圧により、緊急時に、高電圧の電流を必要なタイミングで瞬時に確実に遮断（リレーやヒューズよりも高い信頼性）
- ・ 2025年度に欧州拠点で量産開始

◇ 主用途

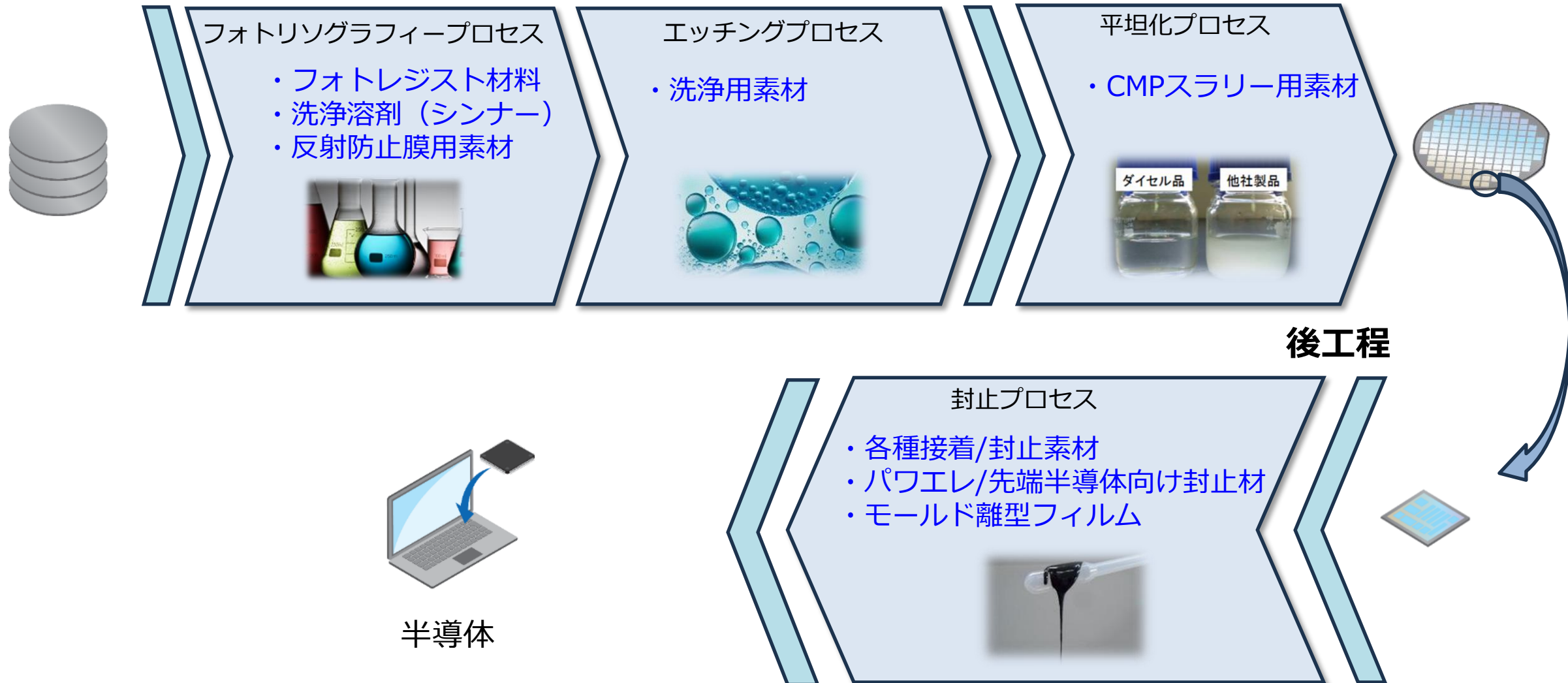
- ・ EVなど自動車用途
- ・ 産業用蓄電システム、大型バッテリーシステム、再生可能エネルギーの蓄電・送電システムなど



電流遮断器

スマート事業 半導体材料向け製品一覧

前工程



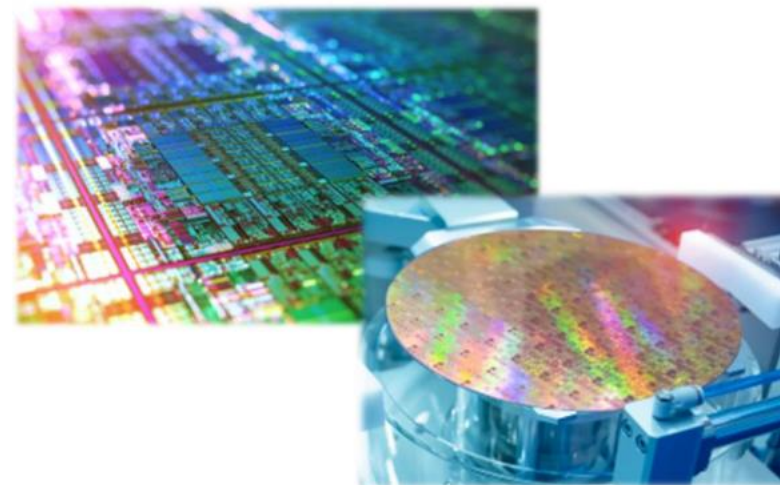
スマート事業

【半導体材料事業】

フォトリソ材料（フォトリソ用ポリマー）

◆ 製品・事業の特徴

- ・ 液浸ArF用、EUV用レジストポリマーをモノマーから設計、一貫生産
- ・ 自社内で化学構造から設計、精密合成
- ・ 金属、異物除去技術による生産・品質管理
- ・ 液浸ArF用レジストポリマーの世界シェア20%以上



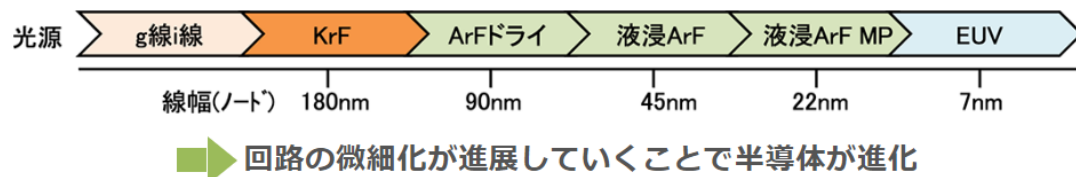
◆ 主用途

半導体（主力は液浸ArF用途。EUV用途も顧客と共同開発を進めており、2026年度より販売を計画）
液晶ディスプレイ（当社の過酢酸を用いたエポキシ化技術により高耐熱性を実現）

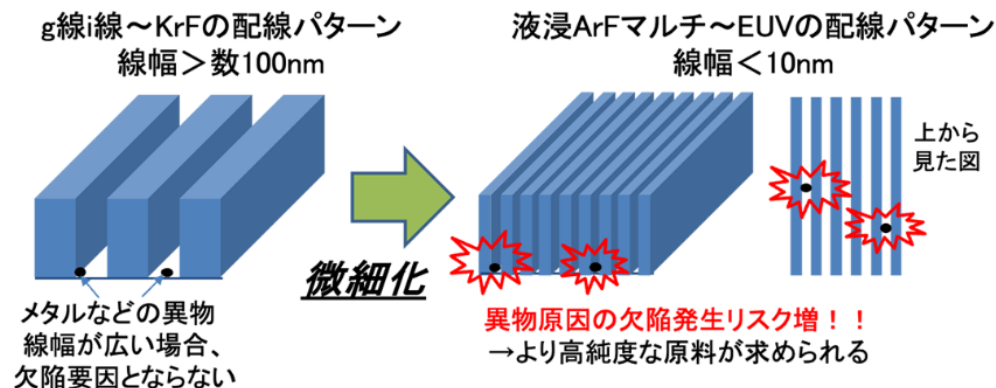
◆ 製造拠点

新井工場（新潟県）

半導体の進化と線幅（ノード）の変遷



半導体微細化に伴う原料の高純度化（イメージ）



スマート事業

【半導体材料事業】



電子材料向け溶剤（PGME、PGMEA）

◇ 製品・事業の特徴

- PGME、PGMEAを国内で唯一、一貫生産
- 半導体の微細化に対応する高純度、低メタル溶剤の幅広いラインナップ、生産・品質管理体制を有し、PGMEAは半導体フォトレジスト業界で国内トップクラスのシェア

◇ 主用途

半導体や液晶ディスプレイのフォトレジスト溶剤、洗浄溶剤

◇ 製造拠点

大竹工場（広島県）（2023年7月に設備増強）

フォトレジスト溶剤

- ウエハーへのレジスト塗布に使用
- 溶解性と揮発性に優れる
- 不純物・低メタル管理強化ニーズの高まり

洗浄溶剤

- 洗浄工程で使用され、回路形成の歩留まりに影響する重要な材料
- 半導体製造工程における品質安定性を支える

スマート事業

【高機能材料事業】

脂環式エポキシ

世界シェア
No.1

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 主原料：過酢酸（自社製造）
- ・ 国内唯一のサプライヤー
- ・ 耐熱性があり、対象物を「固める」機能として使用される
- ・ 過酢酸を用いた世界唯一の製法により、製造工程で塩素を含まず、不純物が少ない
⇒ 耐久性や信頼性が要求される重電（絶縁材）、電材用途で高いシェアを誇る
- ・ 競合素材に比べて耐熱性が高く、低粘度で作業性に優れている
- ・ 40年以上蓄積してきた分子設計・解析技術を活かし、付加価値の大きい特殊エポキシのラインナップが豊富
- ・ 顧客ニーズに応じたテクニカルサポートをグローバルに展開

◇ 主用途

汎用用途：UVコーティング、コイル絶縁ワニス、潤滑油などの添加材など

成長用途：OLEDディスプレイの封止材、EVモーターの絶縁体、CFRP（炭素繊維含浸樹脂）、
パワーモジュール部品の保護材など

EVなど新市場向けにエポキシだけでなくプレミックス材としての販売も行っていく

◇ 製造拠点

大竹工場（広島県）



スマート事業

【高機能材料事業】

カプロラクトン誘導体

◇ 製品・事業の特徴

- ・主原料：過酢酸（自社製造）
- ・世界シェアトップクラス
- ・国内で唯一のサプライヤー
- ・裾野の広い用途に合わせ、多彩なグレードのラインナップを保有している
- ・耐熱性、耐摩耗性、低粘度で作業性に優れる
- ・他のウレタン原料ポリオールと比較し、柔軟性・透明性・耐久性等の機能を付与できる
- ・日本、米国、中国にテクサ拠点を有し、さらに中国、韓国、台湾にてウレタン業界に強い販売チャネルを保有しており、エンドユーザーやマーケットのニーズを的確に把握し、新規アプリケーションの開発・販売を行う



自動車向け塗装保護フィルム

◇ 主用途

汎用用途：ウレタン（シューソール、人工皮革、自動車や建築用の塗料、自動車内装材、透明封止材）

成長用途：ペイントプロテクションフィルム、PUパッドなど

◇ 製造拠点

大竹工場（広島県）

スマート事業

【高機能材料事業】

機能フィルム

◇ 製品・事業の特徴

- ・ベースフィルム（PETなど）にコーティングにより機能を付加するビジネスモデル
- ・2022年度に外注先のグンゼ亀岡工場（現：ダイセルビヨンド）を買収し、ドライコーティング技術を獲得
- ・世界で唯一製品化した「相分離法」（ウェットコーティング）により表面微細凹凸制御技術を実現
- ・相分離技術と素材設計を活用し、車載・高性能ディスプレイ向けに機能フィルムを展開
- ・電池用フィルム（離型フィルム）は高い世界シェア
- ・低反射、指紋がつきにくい、高い抗菌・高ウィルス性能など、多種多様な機能フィルムを展開
機能の組み合わせにより付加価値を出す
- ・最終用途のニーズを捉え、エポキシと組合せて、高耐熱フィルムとして展開

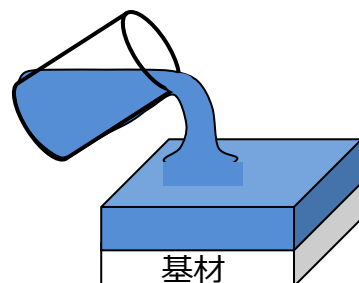
◇ 主用途

車載ディスプレイ、電池用フィルム、TV、PCなどディスプレイ、ペン入力用ディスプレイなど

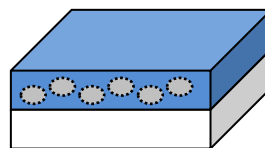
◇ 製造拠点

ダイセルビヨンド 亀岡工場（京都府）

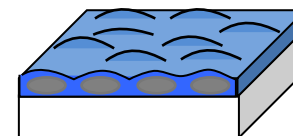
相分離法



乾燥



配合やプロセスの調整により
様々な形状の形成に活用可能



キラル関連事業（キラルカラムなど）

キラルカラム
世界シェアNO.1

◇ 製品の特徴

- ・ キラルカラムとは、光学異性体※を分離するカラム
- ・ 医薬品の研究・製造においては、医薬品の有効性や安全性の確認、目的とする光学異性体の取得などの用途に使用される

※ 光学異性体：鏡像異性体とも呼ばれ、左右の手のように、互いに重ね合わせることのできない鏡像関係にある異性体



◇ 事業の特徴

- ・ 世界の製薬市場（創薬・ジェネリック）向けに40年以上の実績
- ・ グローバルに広がる企業・大学・研究機関の顧客基盤
- ・ 継続的な新規製品開発による豊富な品揃えでソリューションを提供
- ・ 世界5拠点（日本、中国、インド、フランス、米国）で製品販売、テクニカルサービス及び受託分取サービスを展開
- ・ 成熟市場の日欧米でシェアを維持すると同時に、成長市場の中印で高成長を継続
- ・ さらにインドにおいて成長分野である中分子医薬品向けの精製、分析や合成等のサービス事業に注力

アクトランザ®ラボ（動物実験用デバイス） / ダイセルインジェクター P1 SC（医療機器）

◇ 製品・事業の特徴

- ・ ガス発生を駆動力として、針を用いることなく薬液を特定の組織内に送達する
（自動車エアバッグ用インフレーター技術を応用したONE TIME ENERGY®を活用）
- ・ 動物実験用アクトランザ®ラボを2022年6月中旬より日米欧市場で販売開始

➤ アクトランザ®ラボの特徴

1. 針なし高速ジェット注入
2. 狙ったところに届ける深度コントロール（長年培った精密な圧力制御）
3. 片手で簡便に操作可能



アクトランザ®ラボ
（動物実験用デバイス）

◇ 事業化の加速

- ・ 2023年10月に、ダイセルメディカル設立、米国で無針注射器事業を展開するPharmaJet社と戦略的資本提携
- ・ 2024年4月にダイセルメディカルで第二種医療機器製造販売業の許可を取得、2024年10月にダイセル播磨工場で医療機器製造業の許可を取得
- ・ 2025年10月にダイセルメディカルが「ダイセルインジェクター P1 SC」の医療機器製造販売承認を取得
- ・ ダイセルメディカルのもと、PharmaJet社と連携し、デバイスの医療機器承認を加速させるとともに国内外での無針注射器市場の育成を図る

機能性食品素材

◇ 製品・事業の特徴

- 独自の嫌気発酵技術を活用したエクオール（腸内代謝物）が主力製品
- 抽出技術によるユニークな素材（こんにゃくセラミド）
- エクオールを中心にザクロ由来のウロリッチ®や、ホップ由来のアストロホップ®などの腸内代謝物の製品ラインナップを拡充
- アストロホップ®の筋機能に関する機能性など、ヒト臨床試験結果を用いたマーケティング（エビデンスマーケティング）を強化



機能性食品素材の原料

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。
本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

- 本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。
- いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。